

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 9 卷

令和 4 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

まだ終息の見えない新型コロナウイルス感染症に対し、最前線であたっている医療従事者に対し感謝を申し上げます。このような最前線で活躍している看護職員が評価され、一部ではありますが処遇改善が実現した年でした。

さて、2022年度における看護キャリア支援センターの活動は、石川県の医療機関の感染対応へのニーズに応え、令和2年度より継続して「感染管理認定看護師教育課程」を開講し、令和4年度は42名の修了生を輩出いたしました。さらに、石川県からの要請を受け、感染管理の専門的看護実践能力を身につけ、感染防止対策の中心的な役割を担うことができる看護師の育成を目的に、看護実践力向上研修「感染管理看護」を開講し、新たに「保健所職員向け感染症研修」も開講いたしました。

また、医療・介護現場では、地域包括ケアシステム、働き方改革、特定行為研修などの対応や、新しい新興感染症への準備などの多重課題の解決が看護管理者に求められるようになってきています。その課題に対峙できる教育の要望もあり「認定看護管理者(サードレベル)教育課程」を開講し21名の修了生を輩出いたしました。

本看護キャリア支援センターは、令和5年11月1日に十周年を迎えます。記念式典の開催を検討しておりますので、皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。さらに、本看護キャリア支援センターも社会における責務を果たすために、令和6年度より特定行為研修を含む皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の開講に向けて準備をすすめております。それぞれの施設やご自身の看護力向上のために、これからも新しい絆をつないでいきたいと思っておりますので、今後ともご支援を賜りますれば幸甚に存じます。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
紺家 千津子

目 次

(ページ)

| | |
|--|-------|
| I. 感染管理認定看護師教育課程 | 1-9 |
| 1. 目的 | 1 |
| 2. 実施状況 | 1 |
| 3. 実施内容 | 2 |
| 4. 評価 | 6 |
| 5. 今後の課題 | 8 |
| II. 認定看護管理者教育課程サードレベル | 10-16 |
| 1. 教育目的・到達目標 | 10 |
| 2. 実施状況 | 10 |
| 3. 実施内容 | 10 |
| 4. 評価および今後の課題 | 13 |
| III. 認定看護師教育課程フォローアップ研修 | 17-18 |
| 1. 目的 | 17 |
| 2. 日時・参加者 | 17 |
| 3. 実施内容 | 17 |
| 4. 評価 | 18 |
| 5. 今後の課題 | 18 |
| IV. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者経営研修」 | 19-21 |
| 1. 目的 | 19 |
| 2. 定員および研修方法 | 19 |
| 3. 実施状況 | 19 |
| 4. 実施内容 | 19 |
| 5. 評価および今後の課題 | 20 |
| V. 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」 | 22-25 |
| 1. 目的・目標 | 22 |
| 2. 実施状況 | 22 |
| 3. 実施内容 | 22 |
| 4. 評価 | 23 |
| VI. 石川県看護教員現任研修 | 26-30 |
| 1. 目的・目標 | 26 |
| 2. 実施状況 | 26 |
| 3. 実施内容 | 27 |
| 4. 評価 | 29 |
| 5. 今後の課題 | 30 |
| VII. 感染管理看護実践力向上研修 | 31-39 |
| 1. 目的・目標 | 31 |
| 2. 実施状況 | 31 |
| 3. 実施内容 | 31 |
| 4. 評価 | 35 |
| VIII. 保健所感染症対応向上研修 | 40-43 |
| 1. 目的 | 40 |
| 2. 実施状況 | 40 |
| 3. 実施内容 | 40 |
| 4. 評価 | 42 |
| IX. 地域貢献 | 44 |
| 1. 各機関からの依頼による派遣事業 | |

I. 感染管理認定看護師教育課程

1. 目的

- 1) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。
- 2) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。
- 3) 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。

2. 実施状況

【期間】

令和4年7月4日（月）～ 令和5年2月10日（金）

【履修生の背景】

1) 基本属性（表1）

表 1.

| | | | | | |
|-------------------|------|---|--|--|--|
| 履修生数 | | 42名 | | | |
| 男女別 | | 男性 12名 女性 30名 | | | |
| 平均年齢・標準偏差 | | 40.7歳 | | | |
| 所属施設の所在地 (入学前) | 石川県内 | 15名 | | | |
| | 石川県外 | 27名 富山県 5名 福井県 5名 青森県 1名 岐阜県 2名 滋賀県 2名 愛知県 2名 静岡県 1名 京都府 4名 大阪府 1名 兵庫県 1名 岡山県 1名 島根県 1名 福岡県 1名 | | | |
| 所属機関別（入学時） | | 病院 42名 | | | |

2) 入学時の臨床経験年数と感染管理に関する実務経験年数（表2）

表 2.

| 臨床経験 経験年数 | 看護経験 | 感染管理経験 経験年数 | 感染に関する 実務経験 |
|--------------|-------|----------------|----------------|
| 5～9 | 9人 | 3～4 | 24人 |
| 10～14 | 12人 | 5～9 | 15人 |
| 15～19 | 12人 | 10～14 | 3人 |
| 20～24 | 4人 | | |
| 25～30 | 4人 | | |
| 30～ | 1人 | | |
| 平均経験年数 | 15.3年 | 平均経験年数 | 5.0年 |

3. 実施内容

【教育課程の実施状況】

感染管理認定看護師教育課程の年間スケジュールは表 3 に示す。

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。授業科目及び時間数を表 4 に示す。

表 3. 年間スケジュール

| 項 目 | 期 間 |
|--------------------|---------------------------|
| 開講式 (オリエンテーション) | 7月 4日 (月) |
| | 7月 5日 (火) |
| 授業開始 | 7月 6日 (水) ~ |
| 夏季休業 | 8月 13日 (土) ~ 8月 15日 (月) |
| 実習期間 | 10月 24日 (月) ~ 11月 25日 (金) |
| 冬季休業 | 12月 29日 (木) ~ 1月 4日 (水) |
| 修了試験 | 1月 17日 (火) |
| 修了式 | 2月 10日 (金) |

表 4. 授業科目と時間数

| 授 業 科 目 | | 時 間 数 |
|---------|---------------------------|-------|
| 共通科目 | 1. 医療安全学:医療倫理 | 15 |
| | 2. 医療安全学:医療安全管理 | 15 |
| | 3. 医療安全学:看護管理 | 15 |
| | 4. 臨床薬理学:薬理作用 | 15 |
| | 5. チーム医療論 (特定行為実践) | 15 |
| | 6. 相談 (特定行為実践) | 15 |
| | 7. 指導 | 15 |
| | 8. 医療情報論 | 15 |
| 専門基礎科目 | 1. 感染管理学 | 15 |
| | 2. 疫学と統計学 | 30 |
| | 3. 微生物学 | 15 |
| | 4. 感染症学概論 | 15 |
| | 5. 感染症学各論 | 30 |
| | 6. 医療管理学 | 15 |
| 専門科目 | 1. 医療関連感染サーベイランス概論 | 15 |
| | 2. 医療関連感染サーベイランス各論 | 30 |
| | 3. 感染防止技術 | 30 |
| | 4. 職業感染管理 | 15 |
| | 5. 感染管理指導と相談 | 15 |
| | 6. 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント | 15 |
| 学内演習 | 90 | 270 |
| 臨地実習 | 180 | |
| 総時間数 | | 630 |

【担当教員】

主任教員:池田富三香（特任准教授）

担当科目:医療安全学:医療倫理、感染管理学

専任教員:大井 希美佳（特任講師）

担当科目:看護管理、チーム医療論、相談（特定行為実践）、感染管理学、
医療関連感染サーベイランス概論・各論、感染防止技術、感染管理指導と
相談、洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント、学内演習、臨地実習

専任教員:松澤 麻里（特任講師）

担当科目:チーム医療論、相談（特定行為実践）、感染管理学、
医療関連感染サーベイランス概論・各論、感染防止技術、感染管理指導と
相談、洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント、学内演習、臨地実習

専任教員:北川 洋子（特任講師）

担当科目:チーム医療論、相談（特定行為実践）、感染管理学、
医療関連感染サーベイランス各論、感染防止技術、職業感染管理、
感染管理指導と相談、学内演習、臨地実習

【非常勤講師】

専門基礎科目、専門科目は感染管理分野における第一線の感染症専門医、各専門医分野の大学の教授・准教授・講師、各専門医分野の医師や看護師、感染管理認定看護師の方々に非常勤講師として講義・演習等を担当していただいた。非常勤講師と担当科目一覧を表5に示す。

表 5-1. 非常勤講師・担当科目

| 講師名 | 所属 | 担当科目 |
|--------|---------------------|-----------------------|
| 浅見 洋 | 石川県立看護大学 | 医療安全学:医療倫理 |
| 鷺尾 美智代 | 独立行政法人国立病院機構医王病院 | 医療安全学:医療安全管理 |
| 寺井 梨恵子 | 石川県立看護大学 | 医療安全学:医療安全管理 |
| 中村 隆 | 中村・平井・田邊法律事務所 | 医療安全学:医療安全管理 医療管理学 |
| 田向 恵美 | 金沢医科大学病院 | 医療安全学:医療安全管理 |
| 丸岡 直子 | 石川県立看護大学 | 医療安全学:看護管理 |
| 多賀 允俊 | 金沢医科大学病院 感染制御室 | 臨床薬理学:薬理作用 感染症学概論 |
| 池田 浩幸 | 石川勤労者医療協会城北病院 | 臨床薬理学:薬理作用 |
| 阪上 学 | 国立病院機構 金沢医療センター | 臨床薬理学:薬理作用 |
| 安井 正英 | 国立病院機構 七尾病院 | 臨床薬理学:薬理作用 |
| 紺家 千津子 | 石川県立看護大学 | チーム医療論（特定行為実践） |
| 細田 清美 | 福井済生会病院 | チーム医療論（特定行為実践） |
| 武山 雅志 | 石川県立看護大学 | 相談（特定行為実践） |
| 石川 倫子 | 石川県立看護大学 | 指導 |
| 平居 貴生 | 石川県立看護大学 | 医療情報論 学内演習 |
| 稲垣 時子 | 公立能登総合病院 | 医療情報論 |
| 吉村 光弘 | 公立能登総合病院 | 医療情報論 |
| 竹村 美和 | 滋賀医科大学医学部附属病院 感染制御部 | 感染管理学 |

表 5-2. 非常勤講師・担当科目

| 講師名 | 所属 | 担当科目 |
|--------|--------------------------|---------------------------------|
| 藤田 烈 | 国際医療福祉大学未来研究支援センター | 疫学と統計学 |
| 今井 秀樹 | 石川県立看護大学 | 疫学と統計学 |
| 新川 晶子 | 石川県立こころの病院 | 微生物学 微生物検査演習 医療関連感染サーベイランス各論 |
| 所 正治 | 金沢大学医薬保健研究域医学部 寄生虫感染症制御学 | 微生物学 |
| 松村 康史 | 京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学 | 微生物学 感染症学各論 |
| 坂井 優喜子 | 金沢大学附属病院 | 微生物学 |
| 金谷 和美 | 金沢医科大学病院 中央臨床検査部 | 微生物学 |
| 飯沼 由嗣 | 金沢医科大学 | 感染症学概論 感染症学各論 |
| 渡邊 珠代 | 石川県立中央病院 免疫感染症科 | 感染症学概論 感染症学各論 |
| 田中 達朗 | 金沢医科大学 泌尿器科学 | 感染症学各論 |
| 西 耕一 | 石川県立中央病院 呼吸器内科 | 感染症学各論 |
| 森岡 浩一 | 福井大学医学部附属病院 | 感染症学各論 |
| 中積 泰人 | 金沢メディカルステーション ヴィーク | 感染症学各論 |
| 土島 睦 | 金沢医科大学 | 感染症学各論 |
| 笹川 寿之 | 金沢医科大学 | 感染症学各論 |
| 宮川 須美子 | 東海北陸厚生局石川事務所 | 医療管理学 |
| 木曾 啓介 | 石川中央保健福祉センター | 医療管理学 |
| 中村 真寿美 | 金沢医科大学病院 | 医療管理学 |
| 高山 一夫 | 京都橘大学 | 医療管理学 |
| 野田 洋子 | 金沢医科大学病院 感染制御室 | 医療管理学 |
| 青木 雅子 | 富山大学附属病院 感染制御部 | 医療関連感染サーベイランス各論 感染防止技術 |
| 森兼 啓太 | 山形大学医学部附属病院 | 医療関連感染サーベイランス各論 |
| 中川 佳子 | 金沢医科大学病院 感染制御室 | 医療関連感染サーベイランス各論 |
| 梅田 加洋子 | 真生会富山病院 | 感染防止技術 |
| 鍛冶 佳美 | JCHO 金沢病院 | 感染防止技術 |
| 浦嶋 ひとみ | 石川県済生会金沢病院 | 感染防止技術 |
| 近藤 祐子 | 石川県立中央病院 | 感染防止技術 |
| 赤尾 康子 | 加賀市医療センター | 感染防止技術 |
| 清水 直美 | 富山県立中央病院 医療安全部感染対策室 | 感染防止技術 |
| 森河 裕子 | 金沢医科大学看護学部 | 職業感染管理 |
| 中川 かつ枝 | 国立病院機構七尾病院 | 職業感染管理 |
| 江波 麻貴 | 浅ノ川総合病院 | 職業感染管理 |
| 嶋田 由美子 | 公立つるぎ病院 | 感染管理指導と相談 |
| 池田 恵子 | 城北病院 医療安全管理室 | 洗浄・消毒・滅菌とファシリタマネジメント |
| 垣花 渉 | 石川県立看護大学 | 学内演習 |
| 小林 宏光 | 石川県立看護大学 | 学内演習 |
| 今井 美和 | 石川県立看護大学 | 微生物検査演習 |

表 5-3. 非常勤講師・担当科目

| | | |
|-------|----------|---------|
| 片山 雪絵 | 浅ノ川総合病院 | 微生物検査演習 |
| 村 竜輝 | 金沢医科大学病院 | 微生物検査演習 |
| 窪 亜紀 | 恵寿総合病院 | 微生物検査演習 |

【臨地実習施設】

令和4年度は、履修生42名が20施設で実習を行った。看護実践実習施設および実習指導者は表6に示す。

表 6. 看護実践実習施設と実習指導者

| No | 施設名 | 実習指導者 |
|----|----------------------|---------------------------|
| 1 | 国立大学法人 富山大学附属病院 | 青木 雅子 松浦 美里 |
| 2 | 富山赤十字病院 | 亀山 礼子 長枝 智子 |
| 3 | 富山県立中央病院 | 清水 直美 |
| 4 | 市立砺波総合病院 | 村本 由子 |
| 5 | 公立能登総合病院 | 櫻井 美幸 澤田 明美 |
| 6 | 国立病院機構 七尾病院 | 中川 かつ枝 小泉 恵 |
| 7 | 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 | 谷田部 美千代 |
| 8 | 金沢医科大学病院 | 野田 洋子 西岡 美保 |
| 9 | 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 | 江波 麻貴 上島 雅子 |
| 10 | 地域医療機能推進機構 金沢病院 | 鍛冶 佳美 岩島 さやか |
| 11 | 国立病院機構 金沢医療センター | 西原 寿代 |
| 12 | 国立大学法人 金沢大学附属病院 | 中村 洋子 田中 靖也 |
| 13 | 金沢市立病院 | 奥野 由美 |
| 14 | 石川県立中央病院 | 藤川 真佐子 近藤 祐子 |
| 15 | 白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院 | 河奥 辰徳 小笠原 佐緒里 木下 幸子 |
| 16 | 医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 | 小谷口 みさき 北 みゆき |
| 17 | 白山石川医療企業団 公立つるぎ病院 | 嶋田 由美子 |
| 18 | 国民健康保険 小松市民病院 | 米多 弘子 新木 京子 |
| 19 | 国立大学法人 福井大学医学部附属病院 | 松山 千夏 西村 一美 |
| 20 | 福井赤十字病院 | 田本 聡子 |

4. 評価

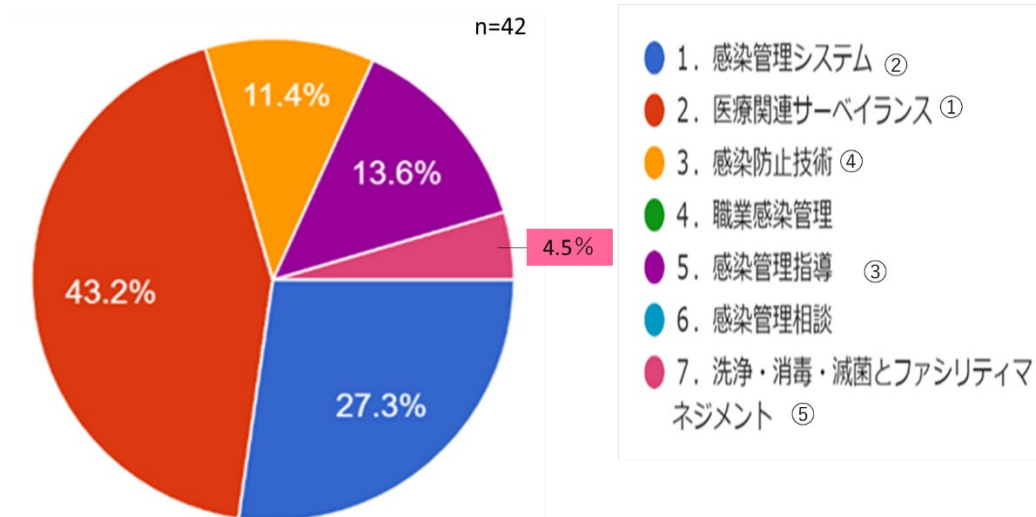
【履修状況に関する評価】

講義・演習・実習においては、履修生全員が科目認定された。その上で修了試験を受け、全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。修了生 42 名は、2023 年 10 月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。

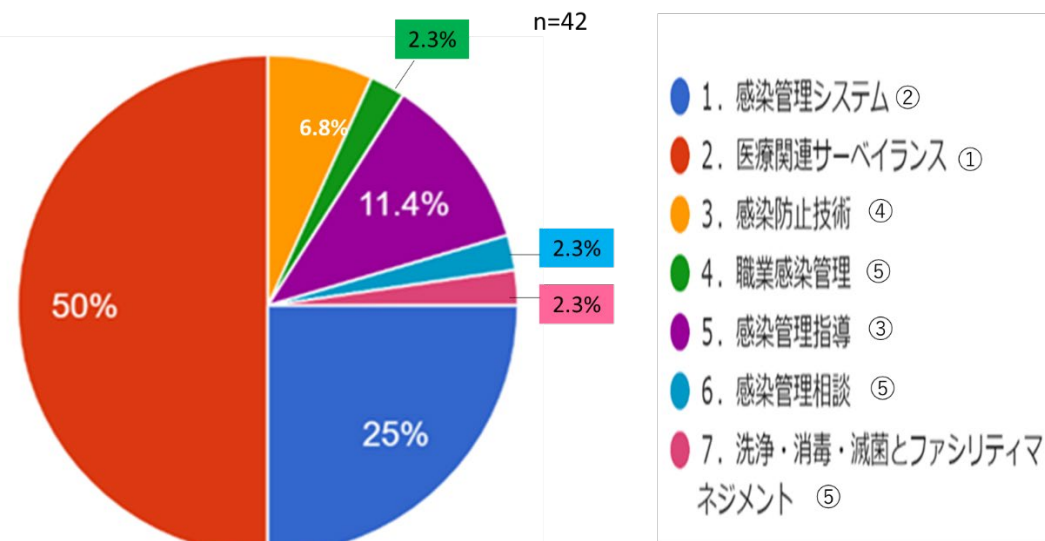
履修生は教育課程において多くの学びを得て、臨地実習においてその学びから、自施設での感染管理の実践へと活用できるよう感染管理プログラムを立案した。実習での学びや意見については、アンケートを実施して把握した。

【履修生の学んだ内容（一部抜粋）】

1) 実習開始前の計画立案時に最も重要とした項目



2) 実習で最も学べた感染管理プログラム



3) アンケート内容

(1) サーベイランス

- ・講義、演習では体感できなかったが、実習で実際に行って理解を深められた。
- ・サーベイランスの計画、依頼文作成、依頼の仕方、データ収集、分析、評価、フィードバックなど一連の流れを経験でき理解を深められた。
- ・CLABSI/CAUTI/VAP/SSIに関連した感染率・器具使用比の算出だけではなく、現場でプロセスを見て、感染対策の改善方法の検討をしなければならないことが理解できた。
- ・手指衛生サーベイランスでは、直接観察法を用いてWHOの5つのタイミングを確認するために、各部署で観察を行った。どのタイミングで手指衛生が必要なのか理解が十分できていなかったが、繰り返し経験することで実際の手指衛生のタイミングが理解できるようになった。
- ・フィードバックする際は、伝えたい内容に焦点を絞り伝えること、スタッフのレディネスを理解した上で、言葉や内容の表現を選択し、現場に合った内容とポジティブフィードバックを行うことが重要であることを学んだ。

(2) 感染管理システム

- ・病院組織における、感染管理認定看護師としての役割を理解することができた。
- ・感染対策のシステムが構築されており、実際の管理の様子、感染管理認定看護師の活動内容が具体的にイメージできた。
- ・ICTのチームワークの大切さやコミュニケーションの取り方が大切で、仲間づくりが大事であることを学んだ。
- ・リンクナースとの協働やリンクナース会の運用方法について学ぶことができた。
- ・感染対策向上加算1施設として、施設基準を満たすための活動について勉強はしてきたが、実際の活動に同行したことがなく、イメージできていなかった。しかし、他施設との連携や相互訪問、ICTラウンドなど色々と見学することができ、今後、自身が専従業務を行う活動の方向性を見出せた。

(3) 指導

- ・対象のレディネスを考慮して、理解度も確認しながらすすめることの大切さを学んだ。
- ・正しい知識を説明するだけではなく、指導する施設の状況にあった方法を検討し、理解し実践してもらうような指導が望ましいと実感した。
- ・継続した感染対策の教育の必要性について学んだ。
- ・教育対象者は、経験のある職業人、知識をもった成人であることが多く、行動変容が難しい場合もあるが、定期的に教育を行うことが職員の意識向上のために必要であると学んだ。

(4) 感染管理プログラム以外の学び

- ・CNICの通常業務の流れや取り組み方を学んだ。
- ・現場に足を運ぶことの大切さ。
- ・常に新しい知識や情報を学ぶことの大切さ。

- ・ポジティブフィードバックは、スタッフのモチベーションアップにつながり、また、その積み重ねが信頼関係につながることを学んだ。
- ・スタッフ自身が自部署の問題を明確にでき、改善策に導くよう支援する事感染管理指導では、相手の立場に立つ相手に伝わるプレゼンの方法、資料の作成と共に、コミュニケーション能力、プレゼン能力も経験する中で磨いていかななくてはいけないこと相手の立場に立ち、実践可能な範囲で感染対策を実践していくこと。
- ・CNICの役割、環境ラウンドで見る視点、ICT・CNICとしての覚悟、熱意、看護観、感染管理を通して何を誰に伝えるべきなのか（使命）を肌で感じる事ができた。
- ・目指したいもの、目指すべきことを教えてもらった。
- ・ICTメンバーや多職種と協働することの重要性、他のCNICと情報を密にし、統一した指導や対応をすることの大切さ。
- ・人間関係と人間力。指導をしていく中で、関係性がなければ誰も話を聞いてくれないし、感染管理に対する姿勢や思いがしっかりしていると、その思いが周りにも影響する。
- ・相談しやすい雰囲気を作り、人間関係を構築する重要性。
- ・風通しのよい関係性を構築しておくことで、院内外から情報を得やすく、感染対策への理解や関心が高められる。
- ・各部署で感染対策を担うリンクナースの立場を理解して、コミュニケーションを取りながら、フォローしていく必要があることがよく分かった。
- ・常に笑顔で声をかけ、少しでも良いことがあるとポジティブフィードバックするが、重要な注意喚起については、毅然とした態度で口調も強く訴える場面も見られ引き締まる空気を感じた。
- ・感染管理への熱意と、職員への接し方（優しさ丁寧さ強引さ）。
- ・相談対応をしている姿を見て、その先にあることは、いつも患者さんの安心、安全のためであり、患者さんに寄り添った活動であるということが実習中の一番の学び。

(5) 実習施設の学習環境

- ・実習指導者さんともう少し話す時間が欲しかった。
- ・電子カルテを一台専用で使用することができ、記録等もできる環境を設定していただけたので、集中して実習に取り組むことができた。
- ・困った時にはすぐに声をかけても良いという雰囲気や声掛けなどをしていただき、受け入れていただけた。
- ・指導者の感染に対する熱意を強く感じ、自分の目指すCNIC像となった。

5. 今後の課題

令和4年7月4日に3年ぶりに対面で開講式(図1)を実施した。新型コロナウイルス感染症流行状況により一時的に遠隔会議システム(zoom)によるオンライン授業も取り入れながら原則、対面にて講義を実施した。令和5年2月10日の修了式も、対面で開催した(図2)。

臨地実習に関して、新型コロナウイルス感染症の第8波の立ち上がりとなる時期と重なり、県外施設での実習を含め、感染予防対策に十分留意し、実習施設での経験を積む事ができた。また、実習中に新型コロナウイルス感染症に罹患した履修生がいたが、ICTを利用し実習を継続でき、不足分は実習施設における補修実習および学内補修実習を実施しフォローすることができた。実習時期に関しては、指導者のアンケートから、適切な時期であったと意見があり、今後、教育課程を実施する場合も、降雪がない時期を検討できればよいと考える。

令和4年度は、入学前の事前課題内容（施設の現状把握のための情報収集項目）を検討し、入学前までの課題としたが、自施設の現状把握が十分ではなく、十分アセスメントできていない履修生が多い状況にあった。講義、実習を通し、自施設で実践できる感染管理プログラム作成という目標は達成できたが、具体性に欠ける部分が多く見受けられた。専門基礎科目や専門科目において、実習を視野に入れた詳細な演習ができる講義を充実させていく必要がある。

また、デバイスサーベイランスを経験せずに入学した履修生が32名にも及んでいた。医療関連感染サーベイランスにおいては、チェックリストは沢山作成したが、どのくらい現場で使えるものにして実習を行ったのか疑問であると指導者よりご意見もあり、サーベイランスに関して、一步踏み込んだサーベイランス演習を行えるとよいと考える。



7月4日 開講式 (図1)



2月10日 修了式 (図2)

II. 認定看護管理者教育課程サードレベル

1. 教育目的・到達目標

【教育目的】

多様なヘルスケアニーズをもつ個人、家族、地域住民及び社会に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために必要な知識・技術・態度を習得する。

【到達目標】

- 1) 保健医療福祉の政策動向を理解し、それらが看護管理に与える影響を考えることができる。
- 2) 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために、看護現場の現状を分析し、データ化して提示することができる。
- 3) 経営管理の視点に立ったマネジメントが展開できる。

2. 実施状況

【教育期間】

- I 期:令和4年10月19日(水)～11月11日(金)
II 期:令和4年11月21日(月)～12月1日(木)
III 期:令和4年12月12日(月)～12月22日(木)
修了式:令和5年2月10日(金)

【履修生数】 21名

【履修生の背景】

1) 基本属性

| | | |
|----------|-------|-----|
| 性別 | 男性 | 2名 |
| | 女性 | 19名 |
| 平均年齢 | 52.3歳 | |
| 所属施設の所在地 | | |
| | 石川県 | 13名 |
| | 富山県 | 6名 |
| | 福井県 | 2名 |

2) 履修生の職位

| | |
|--------------|-----|
| 看護部長 | 2名 |
| 副看護部長 | 9名 |
| 看護部長・副看護部長以外 | 10名 |

3. 実施内容

【カリキュラム】

認定看護管理者教育課程サードレベルのカリキュラムは、公益社団法人日本看護協会が定める『認定看護管理者カリキュラム基準に関する規定』に則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは「ヘルスケアシステム論Ⅲ」、「組織管理論Ⅲ」、「人材管理Ⅲ」、「資源管理Ⅲ」、「質管理Ⅲ」、「統合演習Ⅲ」であり、修了要件は、すべての教科目に合格することである。授業科目及び授業時間数を表1に示す。

表1-1. 授業科目、単元及び時間数

| 授業科目 | 時間 | 単元 |
|-------------|----|---|
| ヘルスケアシステム論Ⅲ | 30 | 1) 社会保障制度・政策の動向 2) 看護制度・政策の動向 3) ヘルスケアサービスの創造 |
| 組織管理論Ⅲ | 30 | 1) 組織デザインと組織運営 2) 組織における倫理 |

表 1-2. 授業科目、単元及び時間数

| 授業科目 | 時間 | 単 元 |
|-------|-----|----------------------------------|
| 人材管理Ⅲ | 15 | 1) 社会システムと労務管理 2) 看護管理者の育成 |
| 資源管理Ⅲ | 30 | 1) 経営戦略 2) 財務管理 3) 組織的情報管理 |
| 質管理Ⅲ | 30 | 1) 経営と質管理 2) 組織の安全管理 |
| 統合演習Ⅲ | 45 | 1) 演習 2) 実習 |
| 合 計 | 180 | |

【担当教員】

池田富三香
出口まり子

【非常勤講師】

非常勤講師と担当科目一覧を表 2 に示す。

表 2-1. 非常勤講師および担当科目

| 教科目 | 単元 | 教育内容 | 時間 | 講師名 | 所属 |
|-------------------|-----------------|---|----|-------|--|
| ヘルスケアシステム論Ⅲ 30 | 1) 社会保障制度・政策の動向 | ・社会保障の将来ビジョン | 3 | 岡野 大輔 | 金城大学 社会福祉学部 講師 |
| | | ・グローバルな視点から見た保健医療福祉 WHO の活動、国連 SDGs 等 | 3 | 米山 芳春 | 独立行政法人国際協力機構 北陸センター (JICA Hokuriku) 所長 |
| | 2) 看護制度・政策の動向 | ・看護制度の変遷と政策 ・看護政策に関する審議会・検討会 ・制度変化に伴う看護管理への影響と対応 ・看護戦略とパワーの活用 ・職能団体による政策への影響力 | 6 | 小藤 幹恵 | 石川県看護協会 会長 |
| | 3) ヘルスケアサービスの創造 | ・ヘルスケアサービスのマーケティング ・社会的企業(ソーシャルエンタープライズ) ・NGO、NPO のヘルスケアサービス | 6 | 高山 一夫 | 京都橘大学 経済学部長 |
| | | ・地域連携を基盤としたヘルスケアサービス ・在宅におけるヘルスケアサービス | 3 | 大田 章子 | 社会医療法人祥和会 脳神経センター大田記念病院 |
| | | | 3 | 榊原 千秋 | コミュニティスペースややの家 |
| | | ・ヘルスケアサービスのシステム構築 ・看護事業の開発と起業 ・テクノロジーの活用 | 6 | 川添 高志 | ケアプロ株式会社 代表取締役 |

表 2-2. 非常勤講師および担当科目

| 教科目 | 単元 | 教育内容 | 時間 | 講師名 | 所属 |
|--------------|----------------------------|--|----------------|------------------------------------|--|
| 組織管理論Ⅲ 30 | 1) 組織デザインと組織運営 | ・組織デザイン ・組織間ネットワークのデザイン | 9 3 | 藤田 恵子 石川 倫子 | 国立病院機構石川病院 看護部長 石川県立看護大学 教授 |
| | | ・地域連携ネットワークのデザイン ・ダイバーシティ | 3 | 澤味 小百合 | 公立能登総合病院 副院長・看護部長 |
| | | ・組織運営に必要な能力 ・経営者に求められる役割と必要な能力 | 3 3 | 辻 千芽 中村 真寿美 | 金沢大学附属病院 看護部長 金沢医科大学 副院長・看護部長 |
| | | ・組織戦略とパワーの活用 ・経営者としての成長と熟練 | 3 | 西村 路子 | 滋賀県立総合病院 院長補佐兼看護部長 |
| | 2) 組織における倫理 | ・組織における倫理的課題 ・倫理的課題に対する組織的対応 | 6 | 吉田 千文 | 常磐大学 特任教授 |
| 人材管理Ⅲ 15 | 1) 社会システムと労務管理 | ・賃金制度 ・人事考課 ・能力評価のためのシステムの構築 | 3 | 中村 真寿美 | 金沢医科大学病院 副院長・看護部長 |
| | | ・労働関係法規の最新の動向 ・建設的な労使関係の構築 | 3 | 加藤 明子 | 加藤看護師社労士事務所 代表 |
| | | ・人材フローのマネジメント | 3 | 五十嵐 行江 | 福井大学医学部附属病院 副病院長・看護部長 |
| | | ・ハラスメントの組織的対応 | 3 | 加藤 明子 | 加藤看護師社労士事務所 代表 |
| | 2) 看護管理者の育成 | ・看護管理者の能力開発、活用 | 3 | 丸岡 直子 | 石川県立看護大学 名誉教授 |
| 資源管理Ⅲ 30 | 1) 経営戦略 | ・医療経営の特徴と課題 | 3 | 吉村 光弘 | 公立能登総合病院 事業管理者 |
| | | ・医療施設、介護福祉施設、訪問看護ステーション等の経営の特徴と課題 ・戦略策定 | 3 | 仲井 培雄 | 医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 理事長 |
| | | | 3 | 野村 仁美 | JCHO山手メディカルセンター 看護部長 |
| | | | 3 | 濱中 洋平 | 株式会社日本経営 NKアカデミー 事業 統括マネージャー |
| | | | 3 | 大日方 光明 | 株式会社日本経営 介護福祉コンサル ティング部 参事 |
| | 2) 財務管理 | ・財務会計 ・管理会計 ・資金管理 | 9 | 阿部 究 | 医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 事務局長 |
| 3) 組織的情報管理 | ・関連法規の遵守 ・地域における情報共有・活用 | 3 3 | 稲垣 時子 吉村 光弘 | 公立能登総合病院 診療情報管理室 公立能登総合病院 事業管理者 | |
| 質管理Ⅲ 30 | 1) 経営と質管理 | ・ガバナンスとアカウンタビリティ | 3 | 中西 容子 | 金沢市立病院 看護部長 |
| | | ・医療・看護の質とデータ活用 | 6 3 | 中西 容子 西村 路子 | 金沢市立病院 看護部長 滋賀県看護協会 |
| | | ・第三者評価 | 3 | 高橋 ひとみ | 公立松任石川中央病院 教育研修部長 |
| | 2) 組織の安全管理 | ・安全文化の醸成 ・医療事故防止のための組織的対策 | 3 3 | 江藤 真由美 野上 悦子 | 石川県立中央病院 看護部長 金城大学 看護学部 教授 |
| | | ・危機管理 | 3 3 3 | 飯沼 由嗣 阪上 学 田邊 昇 | 金沢医科大学病院 教授 国立病院機構金沢医療センター 院長 中村・平井・田邊法律事務所 弁護士・医師 |

表 2-3. 非常勤講師および担当科目

| 教科 目 | 単元 | 教育内容 | 時間 | 講師名 | 所属 |
|---------------------------------|-----------|---|-------|---|---|
| 統 合 演 習 Ⅲ 45 | 1) 演習 | ・学習内容を踏まえ、受講者自身が演習内容を企画し実施する。 例 1:自組織について分析し、組織の改善計画を立案する。またはトップとして組織を分析し改善計画を立案する。 例 2:保健医療福祉に関する統計データを分析し、保健医療福祉サービス提供体制の改革ビジョンを策定する 例 3:保健医療福祉に関する政策提言を行う | 18 | 岡山 容美 田中 節子 橋本 陽子 山下 順子 坂本 和美 中田 晴美 村瀬 由美 横山 美奈子 出口 まり子 池田 富三香 | 独立行政法人国立病院機構 北陸病院 看護部長 医療法人社団浅ノ川 看護部長 金沢脳神経外科病院 看護部長 公立つるぎ病院 副院長兼看護部長 社会福祉法人喜峰会ボニジュール根上 医務室長 金沢市立病院 看護副部長 小松市民病院 看護副部長 公立松任石川中央病院 副看護部長 公立能登総合病院金沢大学附属病院 副看護部長 石川県看護協会 石川県立看護大学 |
| | | | 12 | 越中 のりこ 山中 由貴子 | 国立病院機構医王病院 看護部長 公立羽咋病院 地域連携推進室長 |
| | 2) 実習 | ・経営の実際を学ぶための実習を受講者自身が企画し実施する。 シェドウイング等 | 15 | 池田 富三香 | 石川県立看護大学 |
| 合計時間 | | | 180時間 | | |
| 特別講義 | 看護の未来に向けて | 3 | 真田 弘美 | 石川県立看護大学 学長 | |

【教育課程の実施状況】

年間スケジュールを表 3 に示す。

表 3. 年間スケジュール

| 日 程 | 実施内容 |
|------------------|----------------|
| 10月 19日 | 開講式 |
| 10月 20日～ 12月 22日 | 講義・演習 |
| 12月 1日～ 12月 9日 | 臨地実習（この期間内に1日） |
| 2月 10日 | 修了式 |

4. 評価および今後の課題

【履修状況に関する評価】

講義・演習について、履修生全員が科目認定され、全員が本教育課程を修了した。修了生 21 名は令和 5 年秋に行われる第 27 回認定看護管理者認定審査を受ける予定である。新型コロナウイルス感染症は第 6 波～第 8 の影響を受けたが、開講式および修了式ともに対面で実施できた。

講義では、感染状況が比較的落ち着き with コロナにむかう状況もふまえて、講義形態は講師の希望を聞きながら一部 zoom によるオンライン授業を行った。オンラインの場合も履修生は教室に集合し、グループワークも行った。グループワークでの話し合いでも講師とやり取りしながら実施できるよう工夫した。演習はすべて対面で実施できた。実習施設は北陸 3 県を中心として全国で実習を行った。感染予防の観点から受け入れをお断りされた施設もあったが、履修生の希望施設で実習できた。

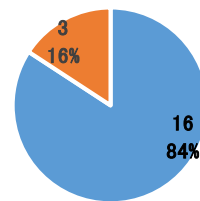
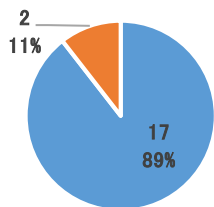
今年度から講師毎に履修生による授業評価を行った。履修生による意見を講師にフィードバックした。

【履修生による教育課程の評価】履修生の本教育課程に対する評価は以下のとおりである。

■講義について

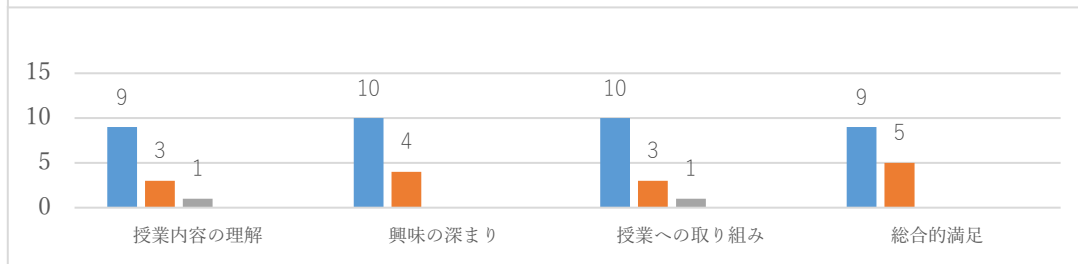
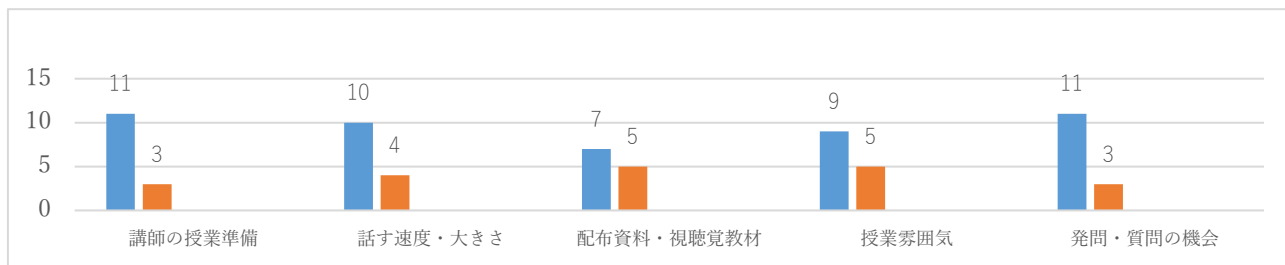
1) 講師の選択は満足だ

2) 時間割の組み方は学習の流れに沿っている

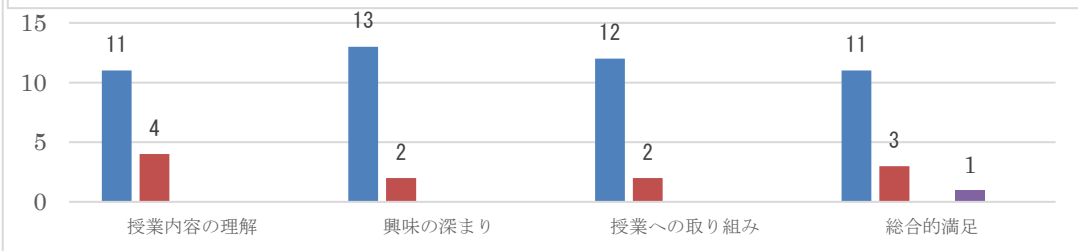
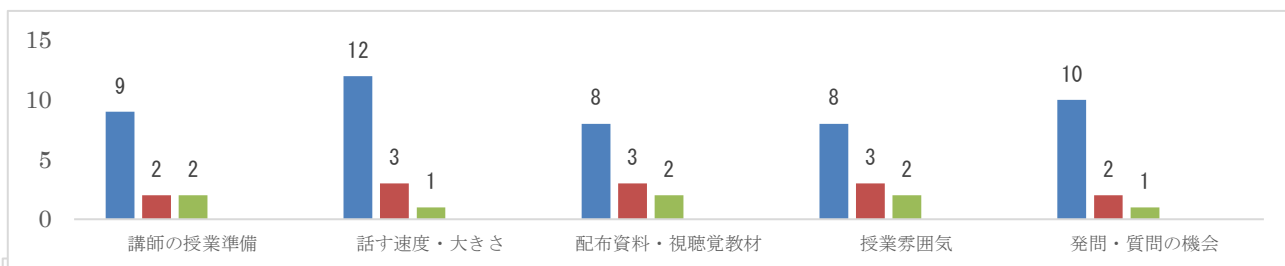


■統合演習Ⅲについて

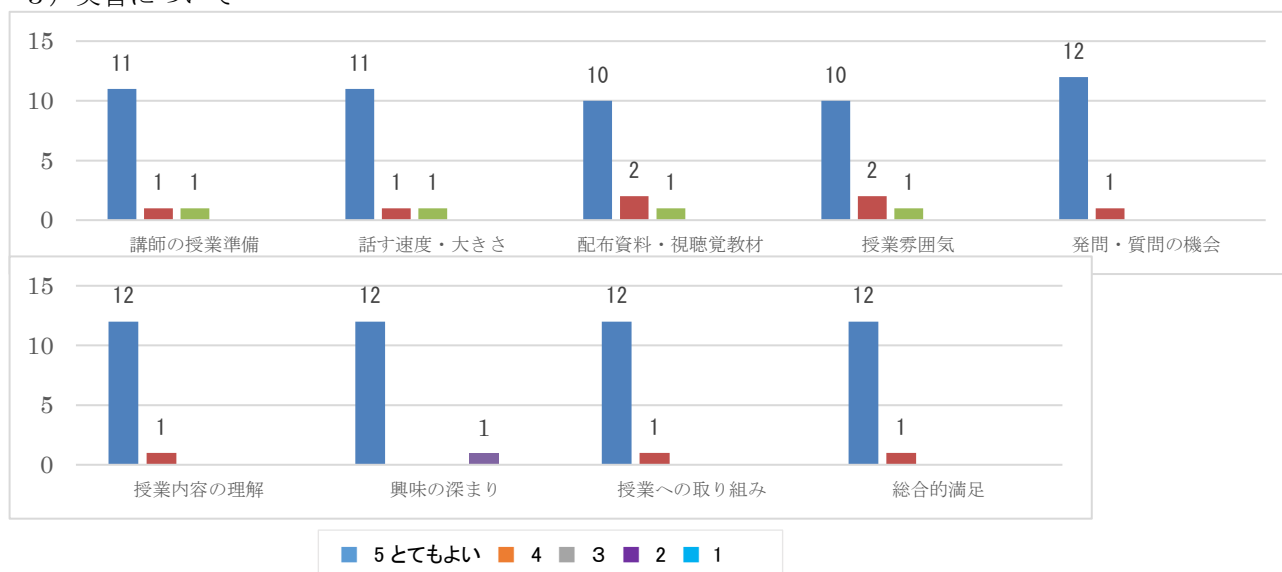
1) 組織改善計画立案について



2) 政策提言演習について



3) 実習について



■既定の内容以外に取り入れた学習に対する評価

令和4年度の実施内容

- ①レポートの書き方（講義およびグループ指導）
- ②認定看護管理者について（認定看護管理者協議会ブロック会長による講義）
- ③認定審査受講にむけての準備（第4期修了生によるプレゼンテーションおよび座談会）

- ・苦手なレポートの書き方や次の認定審査への取り組みを学べたのはとても参考になりました。
- ・聞きたい情報を得る機会になって良かったです。今後もあった方がいい
- ・今回追加された内容は、どれも受講生にとって関心が高い項目であり、現在の内容は継続が望ましい。
- ・認定審査の情報もあまり得る機会がないので、良かったです。

■全体への意見・感想（自由記載）

《講義で履修生間のネットワークや一体感が生まれた》

- ・グループワークや休憩時間の情報交換などでの意見のやり取りがより理解を深めることとなった。
- ・様々な背景の施設からの参加で、目標をともにする集合体として時間の経過とともに一体感を持ってサードレベル研修に取り組んでいた。受講生間での話し合いは常に刺激的だった。
- ・グループワークでの交流からネットワークも広がった。
- ・人間関係形成にも役立った。

《現場から離れて自己を振り返りながら学ぶ》

- ・普段現場ではじっくり考える機会がないまま進んでいたことも、考える機会をいただいた。
- ・どの教科目の講師の皆様も温かく、学ぶことがこんなに楽しいと感じることがなかったのでとても有意義な期間だった。
- ・いろいろな看護管理者の姿を目の当たりにし、自分のカラーでいいのかもしれないと感じ、パワーと勇気ももらえた。
- ・大変刺激的でかつ学びと気づきの180時間でした。

《トップマネジャーの視点でしてじっくり考える機会》

- ・トップマネジャーとしての視点で見る・考えることが訓練されてきました。
- ・トップマネジャーとして何をどのように考え、どのように実行するかの訓練の日々を持つことができたことは、今後の看護管理者として貴重な学びでした。

《研修期間は概ね良いが、少し早めると雪の影響を受けずにすむ》

- ・天候を考慮すると、研修期間は、もう1週間程度早いほうがいいと思う。

- ・12月末ギリギリだったので、12月中旬で終了できると遠方の者は雪の心配をしなくてすむ。
《カリキュラム構成（時間割構成など）の順序性はよい》
- ・科目構成は、次のレポート提出に結びついていると感じ、学習の流れとしてスムーズな理解に繋がっていたと思います。
- ・3か月通しての日程や統合演習などもスケジュールも全て繋げ、積み上げるように学ぶことができた。
- ・統合演習Ⅲ改善計画書は、各グループの指導者の傾向は異なっており、良い点もあると思うが、進捗にも違いがあるように思えた。途中の段階で大まかでも調整が入るとよいと思った。

《サードレベル研修の継続希望》

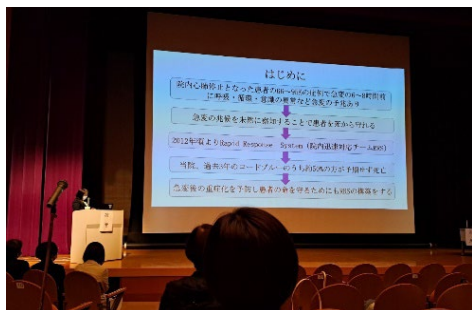
- ・できれば今後も続けてほしい（北陸にないため）。
- ・地元で受講できて良かったと思います。

【全体的評価と今後の課題】

認定看護管理者（サードレベル）教育課程は、昨年度に続けて開催した。定員 25 名のところ応募者は 23 名、2 名の辞退があり、21 名で開講した。21 名とも北陸 3 県からの受講者であり連続で開催した場合には履修生の確保が今後の課題になる。北陸地区で開催するにあたり、受講生数を確保しながら質の高い看護管理者を育成することが重要である。病院だけでなく訪問看護ステーションや老人保健施設等の看護管理者へ参加を働きかけ、看護協会との連携を密にしてファーストレベルやセカンドレベル受講生の状況をみながら開催年度を決定していく。

講義や演習については、履修生の意見をもとに講師と調整しながら学ぶ順序性や演習の方法を工夫した。また、指定された内容以外に組み込んだレポートの書き方や、認定審査にむけての準備、認定看護管理者会の講義などが好評であったため、今後も組み込んでいく。開催時期は、認定看護師教育課程の授業の進行の状況にあわせ、年内に終了できるよう工夫しながら調整する。

次年度は一旦休講として、次回開催年度を検討する。



統合演習Ⅲ 組織改善計画最終発表会



統合演習Ⅲ 演習支援者の方々と5期生 21名



令和5年2月10日 修了式

Ⅲ. 認定看護師教育課程フォローアップ研修

1. 目的

【目的】

感染管理 : 認定看護師としての役割を果たし、次世代を担う人材を育成する。

認知症看護 : 認知症患者の「生(活)きる」を支えるために、認知症看護認定看護師としての知識とケアの向上をはかる。

【テーマ】

感染管理 : 地域包括ケアシステムの推進に向けた認定看護師の役割～チーム医療がより機能するための看護職の裁量発揮～

認知症看護 : 認知症患者の「生きる」「活きる」を支える

2. 日時・参加者

【日時】 令和5年2月4日(土) (認知症看護) 13:30～18:00 (感染管理) 13:30～17:30

【参加者数】 第1部～第3部 約360名

(認知症看護認定看護師91名、感染管理認定看護師113名、感染管理認定看護師教育課程履修生42名)

3. 実施内容

第1部 真田弘美学長特別講演

講演: 「未来の看護に向けて」

講師: 真田 弘美 (石川県立看護大学長)

座長: 紺家 千津子 (石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター長)

第2部・第3部 認知症看護・感染管理各分野に分かれて研修

【感染管理認定看護師の部】

第2部 講演: 「特定認定看護師の活動」

講師: 嶋田 由美子 (公立つぎ病院)

座長: 日向 千恵子 (2期生 金沢医科大学病院)

第3部 感染管理認定看護師活動報告

シンポジスト:

○坂本 信彰 (1期生 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院)

○古川 千恵子 (2期生 医療法人社団浅ノ川 千木病院)

○竹内 智教 (3期生 一般企業)

○日向 高裕 (4期生 京都第二赤十字病院)

○遠藤 弓人 (5期生 米沢市立病院)

座長: 赤尾 康子 (1期生 加賀市医療センター)

荒俣 ゆかり (2期生 公立学校共済組合 北陸中央病院)

【認知症看護認定看護師の部】

第2部 講演: 「認知症の人を地域で支える訪問看護師の実際」～自宅に帰りたい思いを支える～

講師: 伊藤 達也 (ソフィアメディ訪問看護ステーション管理者)

座長: 山口 香 (1期生 小松市民病院)

増井 由紀子 (1期生 独立行政法人国立病院機構 石川病院)

第3部 活かそう! コロナ禍で得た新たなケア～「生(活)きる」を支えるために～

テーマ: 認知症患者の「生きる」「活きる」を支える

シンポジスト:

○間 めぐみ (1期生 高山赤十字病院)

○畠 真理子 (1期生 石川県立こころの病院)

○丸木 裕美 (1期生 福井大学医学部附属病院)

○盛田 大樹 (2期生 医療法人社団城南会 富山城南温泉病院)

○足立 理恵 (2期生 関西労災病院)

- 宮元 滋宏 (3期生 富山県立中央病院)
- 橋本 文 (3期生 福井大学医学部附属病院)
- 座長：秦 祐美 (3期生 公立能登総合病院)
- 山田 みどり (3期生 金沢医科大学氷見市民病院)

4. 評価

今年度は石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター認定看護師教育課程フォローアップ研修として、感染管理、認知症看護、看護管理者の各教育課程修了生合同で、オンラインによる研修会を開催した。感染管理、認知症看護それぞれの教育課程の修了生代表が集まり、分野別の研修内容を検討した。

第1部の講演会は、どのコースにも共通する未来の看護をテーマとして、参加者全員が興味深く聞くことができ、個々が未来に目指す看護の在り方を考える機会となった。第2部・第3部は感染管理と認知症看護教育課程別に分かれての講演会とシンポジウムを行った。第2部の講演会を通して、認定看護師としての自身の役割を果たし、今後活動していくための決意を新たにすることができた。第3部では、コロナ禍における実践についてそれぞれの活動を報告した。コロナ禍で多くの苦難を乗り越え、今もなお対応していく仲間の報告を聞き、ともに学ぶことで、これからの実践への大きな活力となった。

コロナ禍のため、オンラインによる研修会となったが、「ウェビナー、zoom 会議の方法は継続してほしい」「遠方の方、家庭に事情がある方が参加しやすい」などオンラインによる研修の良さを実感した意見があった。一方、ハイブリット研修や対面での研修を希望する意見もあった。

今後もオンラインによる研修の良さを活かし、教育課程の修了生の代表者で意見交換しながら多くの修了生が参加しやすい研修を企画したい。

5. 今後の課題

各期の修了生の代表で研修内容を企画し、修了生のニーズに沿った研修を開催していく。

認知症看護認定看護師教育課程は修了して3年間開講していない。また感染管理認定看護師教育課程は次年度以降一旦休講となる予定である。教育課程の修了生の数も増加しているため、開講がない期間のフォローアップ研修を継続していけるよう運営方法を検討する必要がある。

IV. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者経営研修」

1. 目的

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

2. 定員および研修方法

新型コロナウイルス感染症拡大のため、研修はすべてオンラインで実施した。定員を 10 名増やし 50 名、副看護師長以上の看護職を対象とした。

3. 実施状況

石川県内 33 施設から 48 名参加した。受講者の看護師経験年数は平均 24.3 年、職位は看護部長（管理者）3 名、副看護部長 2 名、看護師長 17 名、副看護師長・主任等 26 名であった。また施設別の参加人数は、病院 44 名、訪問看護ステーション 2 名、介護系施設 2 名。

4. 実施内容

令和 4 年 11 月 18 日、11 月 19 日、11 月 26 日、12 月 2 日に下記の内容で、全て会議ソフト「zoom」による双方向性のオンライン講習とした。オンライン講習の中でグループワークも実施した（表 1）。

表 1-1. 研修日程と内容

| 日 時 | 研修内容 | 講 師 |
|---------------------|--|--|
| 令和 4 年 11 月 18 日（金） | | |
| 10:30～ | オリエンテーション 開講式 | 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 教 員 池田 富三香 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子 |
| 11:10～11:50 | 石川県の看護の状況 | 石川県健康福祉部医療対策課 高山 次代 |
| 13:00～16:00 | 地域包括ケア時代における 看護管理とリーダーシップ① | 石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子 |
| 11 月 19 日（土） | | |
| 9:30～12:00 | 地域包括ケア時代における 看護管理とリーダーシップ② | 石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子 |
| 13:00～16:00 | 組織における倫理的課題 | 常磐大学 特任教授 吉田 千文 |
| 11 月 26 日（土） | | |
| 9:00～15:30 | データを活用した看護管理 -自部署の看護をデータでみる、 看護の質を保証する- 組織の課題達成に向けて -組織分析の意義と手法- | 滋賀県立総合病院 院長補佐兼看護部長 西村 路子 |

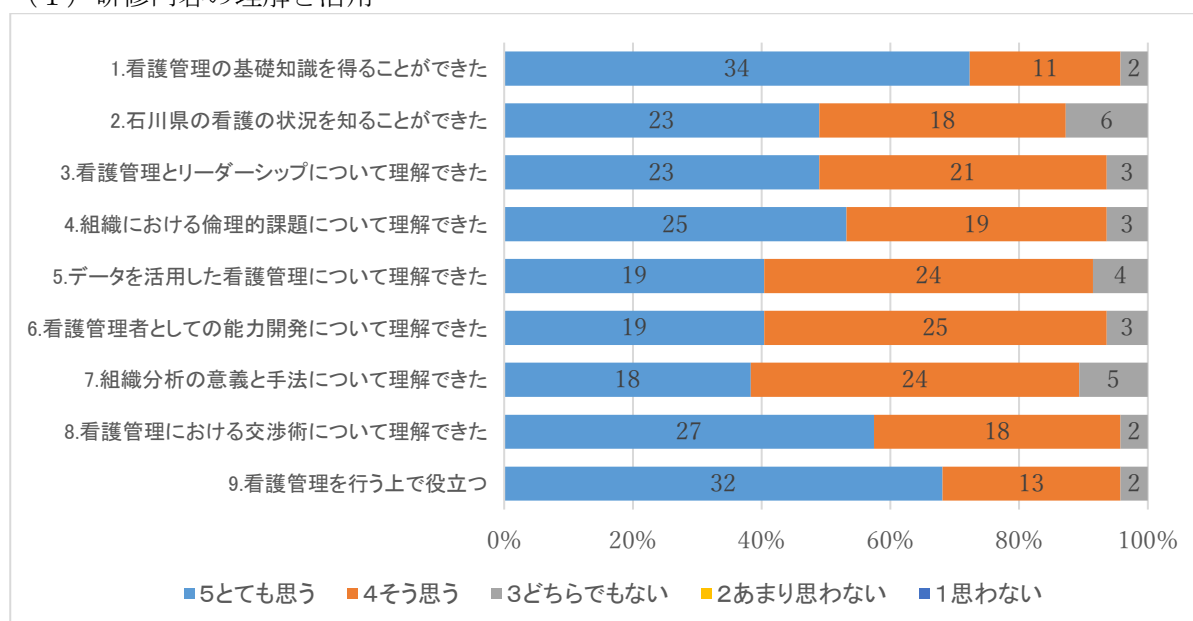
表 1-2. 研修日程と内容

| 令和 4 年 12 月 2 日 (金) | | |
|---------------------|------------------------|--|
| 9:30~12:00 | 看護管理上の課題達成にむけた戦略 –交渉術– | 金沢医科大学病院 キャリア支援センター 課長 高見 知世子 |
| 13:00~15:30 | 看護管理者としての能力開発 | 石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子 |
| 15:30~15:45 | アンケート/閉校式 | 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子 |

5. 評価及び今後の課題

1) 受講生のアンケートによる評価

(1) 研修内容の理解と活用



(2) 自由記載より

〈学びの内容・感想 抜粋〉

- ・いろいろな管理者研修がある中で、本研修は自分にとってとても心と頭に響きました。管理の方法論だけでなく、管理者として大切な事を改めて考える貴重な機会になりました。
- ・組織の一人として看護管理の中の自分の立ち位置の把握を行い、今回の研修で学んだことを現場で活かせるよう頑張っていきたいと思えた研修でした。
- ・日々の問題が自分を育ててくれているのだと思うことができた。振り返ることは看護師ではとても重要なことだと思っている。指導面でもこの気持ちや考えを活用したいと思う。
- ・副師長になったばかりで、知識もあまりないなかでの参加でしたが、とても勉強になりました。
- ・今まで、自分が管理職に携わり事になるとは考えてもみませんでした。今年の7月から部署を移動になり、副師長となり初日からクレーム対応や師長とスタッフ、患者間の連携など「何事も上手いかないな…」とつまらない日々を送っていました。しかし、今回研修に参加させていただき、半年間の経験をもとにリフレクションを行い、次回の看護にどのように役立てれば、効果的に関わられるか、楽しんで考えることができました。これからも悩む事は多いと思いますが、何度も研修の内容を読み返し頑張りたいです。
- ・先生方からの講義はタイムリーに役立つものばかりで、先生の看護管理者としての経験も含めて聞くことが非常にわかりやすい内容でした。今回学んだことを日々の看護管理に活かして、自分自身が成長して行けるよう頑張っていきます。看護は人と人とのつながりから生まれるものです。人を大切にして色々な方との対話を重ねていきたいです。

- ・とても内容が濃く、学びたいと日頃思っていた内容も含まれており勉強になりました。理解したことと、できるということは違うので、この4日間の学びを実践として活かしていけるよう今後もリフレクションしながら成長していけたらと思います。

〈研修へのご意見〉

- ・ズームで研修すると参加しやすいのでありがたいです。
- ・通信が安定していると良かった。
- ・zoomで長時間研修を受ける事に慣れておらず疲労感がありました。オンラインでもグループワークなど他施設のスタッフと話す機会があり、よかった。
- ・コロナ禍でなければ直接お顔を見て話もできたのかと思うと少し残念な気がしますが、逆に遠方であったり、時間の都合などで会場では参加できない方にとっては貴重な時間であったと思います。

2) 全体的な評価

本事業は平成27年～本年度の8年にわたり継続している。一昨年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大を考慮してオンラインですべての研修を計画した。3年間webによる研修を実施した結果、参加のしやすさの観点からこの方法は好評であった。直接対面でグループワークをしたかった意見もみられたが、石川県全域で病院だけに限らず多様な組織からの参加を目指しているため、今後もwebによる研修を活用して計画したい。

また対象を副看護師長以上としたため、ファーストレベルの研修前の方や、長年研修から離れている方のブラッシュアップなど研修の動機は様々で、今後も継続していくニーズを感じた。

V. 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」

1. 目的・目標

【目的】

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

【目標】

皮膚・排泄ケア看護に関する基本を踏まえ、エビデンスのあるケアを実践するための知識と技術を理解する。さらに、自施設におけるスキンケアの管理状況より、解決策を考えることができる。

2. 実施状況

石川県内 23 施設から 31 名が受講した。受講者の所属施設は、病院 29 名、介護医療院 1 名、重症心身障害者施設 1 名であった。所属施設の所在地は、加賀地区 28 名、能登地区 3 名であった。

3. 実施内容

令和 4 年 11 月 5 日・6 日・23 日・27 日の計 4 日間、ストーマ・創傷・失禁ケアの 3 分野に関して、オンラインにてグループワークを交えながら実施した（表 1-1-2）。

表 1-1. 研修日程と内容

| 日時 | 分野 | 科目・講師 |
|---------------------------|-----------------------|--|
| 令和 4 年 11 月 5 日（土） | | |
| 9：25～9：55 | | 看護の動向について 石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ係主査 高山 次代 |
| 10：00～10：55 | Ostomy/ Continence | 泌尿器ストーマと失禁の管理 金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学 |
| 11：00～11：55 | Wound | 創傷治癒と DESIGN-R2020 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子 |
| 13：00～13：55 | Wound | ストーマケアの基礎 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子 |
| 14：00～14：55 | Ostomy | 瘻孔管理 小川医院 院長 小川 滋彦 |
| 15：00～15：55 | Wound | 褥瘡の外科的・物理的療法 金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦 |
| 11 月 6 日（日） | | |
| 9：00～9：55 | Ostomy | 消化器ストーマと術後管理 金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人 |
| 10：00～10：55 | Wound | 褥瘡のリスクアセスメント 福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子 |
| 11：00～11：55 | Wound | 体圧管理 久藤総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり |
| 13：00～13：55 | Wound/ Ostomy | がん薬物療法時のスキンケア 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子 |
| 14：00～14：55 | Wound | スキンケアとドレッシング材の選択 JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹 |
| 15：00～15：55 | Wound | スキンケア 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子 |

表 1-2. 研修日程と内容

| 日時 | 分野 | 科目・講師 |
|------------------------|---------------------------------|---|
| 令和4年11月23日(水・祝) | | |
| 9:00~9:55 | Wound | 下肢の潰瘍のケア |
| | | 公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂 |
| 10:00~10:55 | Wound | 糖尿病のフットケア |
| | | 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴 |
| 11:00~11:55 | Ostomy | ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア |
| | | 金沢大学附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 清美 |
| 13:00~13:55 | Wound | MDRPU(医療関連機器圧迫創傷) |
| | | 金沢医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理 |
| 14:00~14:55 | Wound | 褥瘡のリハビリテーション |
| | | 一般社団法人オーディナリーライフ 理学療法士 神野 俊介 |
| 15:00~15:55 | Continence | IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア |
| | | 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美 |
| 11月27日(日) | | |
| 9:00~9:55 | Continence | 失禁対策 |
| | | 公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂 |
| 10:00~10:30 | Wound | 褥瘡の再発予防 |
| | | 石川県立看護大学 助教 大橋 史弥 |
| 10:40~11:55 | Wound | 褥瘡のケア計画 1 |
| | | 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、村田 幾美、山下 美樹 山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子 |
| | | |
| 13:00~14:10 | Wound | 褥瘡のケア計画 2 |
| | | 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、村田 幾美、山下 美樹 山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子 |
| | | |
| 14:15~15:00 | Wound/ Ostomy/ Continence | ケア相談 |
| | | 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、村田 幾美、山下 美樹 山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子 |

4. 評価

1) 受講生のアンケートによる評価

受講者 31 名中 30 名 (96.8%) より回答を得た。

(1) 受講者の背景

アンケート評価から、受講者の看護師経験年数は平均 14.4 年、所属施設は 300 床以上の病院 13 名、100~299 床の病院 12 名、99 床以下の病院 3 名、介護医療院 1 名、重症心身障害者施設 1 名であった。オンラインによる講義やセミナーなどの受講経験者・未経験者ともに 15 名ずつ (50.0%) であった。

(2) 本研修における受講者の評価 (図 1)

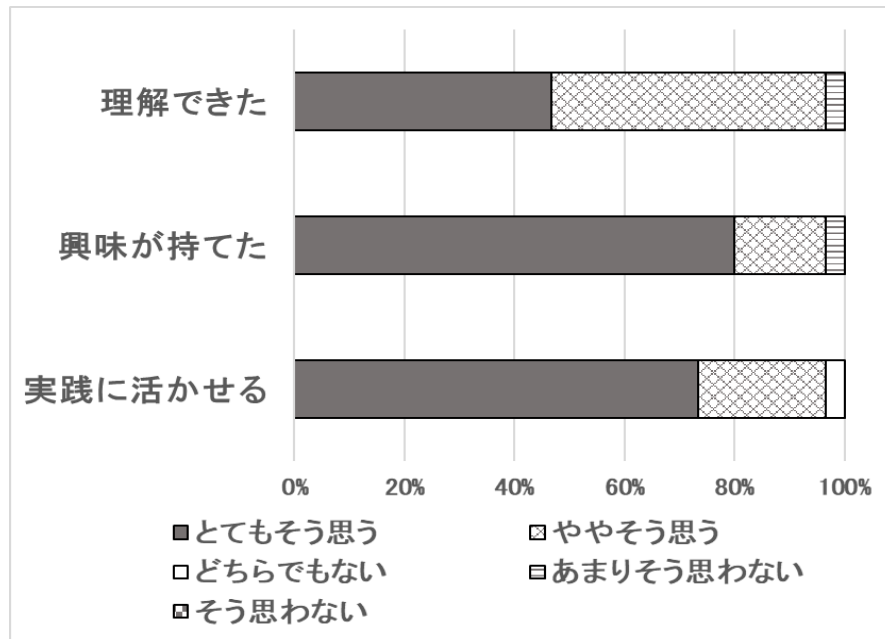


図 1 本研修における受講者の評価

(3) オンライン講義の評価 (図 2, 3)

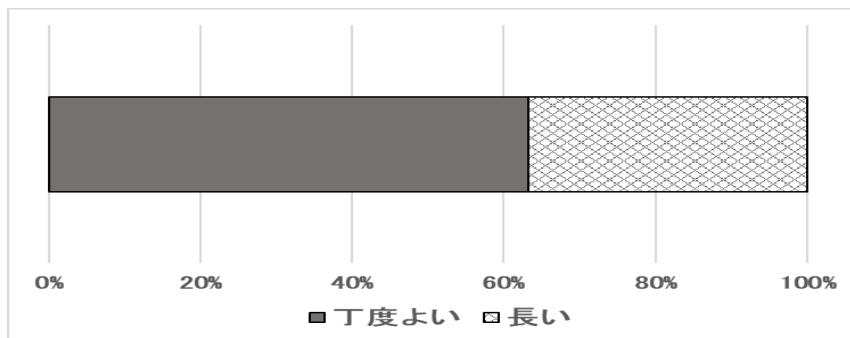


図 2 1日におけるオンライン研修時間の適切さ

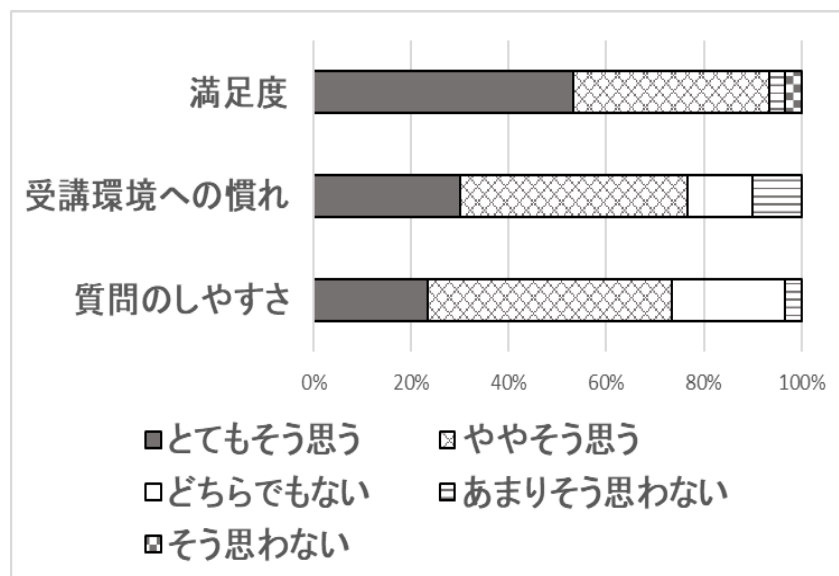


図 3 オンライン講義における満足度、受講環境への慣れ、質問のしやすさ

(4)受講した感想や学び（自由記載より抜粋）

- ・興味がある分野で、ワクワクしながら学べた。早速、今回の研修で得た学びを実践で活かしたい。
- ・幅広い皮膚・排泄ケア分野の基本から応用までの知識と技術を深めることが出来た。
- ・これまで自信がなかった DESIGN-R2020 については演習を通して、その他、MDRPU やスキンテアについても講義を通して知識を深めることが出来た。
- ・グループワークでは、自分以外の視点を聞くことができ、大変勉強になった。
- ・曖昧であった知識について、今一度、基本から振り返ることで、正確な情報として捉える事ができた。
- ・日々の業務に、すぐに実施できることばかりの研修内容であった。所属する病棟スタッフと共有したいと思った。
- ・皮膚・排泄ケア認定看護師や理学療法士など、チームで協力してスタッフの意識向上につなげたいと思った。
- ・受講前は緊張感もあったが、久々に勉強する機会をもらい学生に戻った気分で楽しい時間であった。
- ・オンライン講義であっても、この様な充実した研修を受けられると知った。他分野の研修にも積極的に参加したいと感じた。

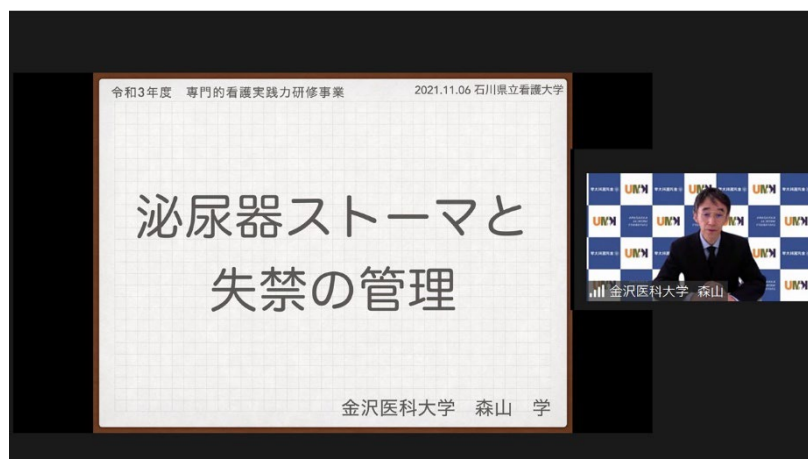
2) 全体的な評価と課題

4 回目の本研修に、受講生 31 名全員が 8 割以上を受講し、修了認定証が交付された。今年度も、コロナ禍の感染状況を鑑み、オンライン研修とした。

研修初日には、発言方法や出席の取り方などの操作が可能か、確認を行った。その後、参加者一人ずつが自己紹介を行い、本研修会に参加した理由や主に学びたいことなどを話していただいた。また、昨年度受講者から要望があった、受講者同士の交流については、グループワーク以外に、休憩時間を利用しアイスブレイクタイムを設けるなどの配慮を行った。本研修期間において、通信トラブルは無く、全日程予定通り開催ができた。

研修にあたっては、講師の方々の協力を得て事前に講義資料を一冊のテキストとして配布した。また、演習においても、受講者個々が行えるよう演習用品を同封し、講義中にその用品を手にとってもらいながら実施することが出来た。

その結果、本研修の理解・興味・実践への活用の評価は、「とてもそう思う」と「ややそう思う」が 9 割を超え、充実した学びが得られたと考えられる。オンライン研修であっても、昨年度に引き続き、受講者の満足度は高かった。次年度は、これまでに得たオンライン研修でのノウハウをいかし、受講生の学修ニーズを満たし、かつ最新の知見等も組み込みながら開催したいと考えている。



研修の様子(金沢医科大学氷見市民病院・森山教授によるオンライン講義)

VI. 石川県看護教員現任研修

【若手教員対象】

若手教員、看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）、看護教員・実習指導者、看護教員と対象別に求められる教育方法を焦点に企画・実施した。

【看護教員・実習指導者や実習指導に関心がある看護職員対象】

「臨地実習指導に活かすコーチング」をテーマに企画・実施した。

【看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）対象】

「自分の授業から学ぶワークショップ」をテーマに企画・実施した。

1. 目的・目標

【目的】

- ・看護教員および臨地における教育担当者の教育力向上を目指すことを目的とする
- ・授業実施上の問題点を参加者同士で共有して、問題点を解決するために授業設計の考えかたとその手法を習得すること

【目標】

- 1) 授業設計の基本・授業の方法・学習活動について理解する
- 2) 学んだ知識を組み込んだ授業を設計して説明することができる
- 3) 他の参加者からのフィードバックを通して授業改善につなげることができる
- 4) 新人看護教員同士が互いに交流を深め、実習指導での自己の経験を意味づけることができる
- 5) 臨地実習指導におけるコーチングスキルを意図的に活用する場面を体験する（知る）ことにより、学生が主体的に学ぶための支援について理解する
- 6) 授業設計の基本・授業の方法・学習活動について理解する
- 7) 学んだ知識を組み込んだ授業を設計して説明することができる
- 8) 他の参加者からのフィードバックを通して授業改善につなげることができる

2. 実施状況

| | | | | |
|------|------|-----|------|------|
| 研修日時 | 6/11 | 8/6 | 8/27 | 11/5 |
| 研修者数 | 16名 | 50名 | 39名 | 12名 |

3. 実施内容

表 1-1. 研修テーマと講師

【若手教員対象】

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催方法 |
|-------------|-----------------|-----------------|--|-------------------------------------|
| 6/11 (土) | 10:30～ 15:00 | 臨地実習指導における教員の役割 | 石川県立看護大学 教授 石川 倫子 <ファシリテーター> 国立病院機構金沢医療 センター金沢看護学校 教員 坂本 泰子 石川県立総合看護専門 学校 教務主任 金田 明子 浅ノ川学園 金沢看護 専門学校 教務主任 山口 恵子 | (対面) 石川県立 看護大学 地域ケア 研修室 |

【看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）対象】

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催場所 |
|------------|----------------|---|--|-------------------|
| 8/6 (土) | 9:00 ～10:30 | COVID-19 感染症による 新人教育への影響 —看護基礎教育と新人教育の連携— 【第 I 部】 話題共有 | <座長兼進行> 石川県立総合看護専門 学校 副学校長 越野 まゆみ 金沢医療センター附属 金沢看護学校 副学校長 西村 民子 <話題提供者> 石川県立総合看護専門 学校 教務主任 西田 妙子 石川県立看護大学 准教授 寺井 梨恵子 金沢医科大学病院 看護師長 北川 奈美江 公立松任石川中央病院 看護師長 関沢 かすみ 公立能登総合病院 教育担当師長 仙本 禎恵 | zoom による オンライン |

表 1-2. 研修テーマと講師

【看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）対象】

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催場所 |
|------------|-----------------|---------------|--|-------------------|
| 8/6 (土) | 10:45 ～12:30 | 【第Ⅱ部】 グループワーク | <ファシリテーター> 国立病院機構医王病院 副看護部長 燕 真理子 加賀看護専門学校 副学校長 大久保 由美子 石川県立看護大学 助教 瀬戸 清華 | zoom による オンライン |

【看護教員・実習指導者や実習指導に関心がある看護職員対象】

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催方法 |
|-------------|------------------|--|--|--|
| 8/27 (土) | 10:00 ～ 12:00 | 臨地実習指導に活かすコーチング 【第Ⅰ部】 1.コーチングの基本的考え方 2.コーチングスキル | NPO 法人日本看護 キャリア開発センター 代表 下山 節子 <司会・進行> 石川県立看護大学 教授 濱 耕子 | zoom による オンライン ・対面 (併用) 石川県立 看護大学 中講義室 4 |
| | 13:00 ～ 15:00 | 【第Ⅱ部】 1.シナリオ作成 2.グループワーク 3.ロールプレイ発表 | <ファシリテーター> 石川県立看護大学 助教 桶作 梢 助教 河合美佳 | |

【看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）対象】

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催場所 |
|-------------|------------------|---|--|-----------------------------|
| 11/5 (土) | 10:00 ～ 10:35 | 自分の授業から学ぶ もやもやの共有と整理 ワーク | 講師: 石川県立大学 教授 小椋 賢治 <司会・進行> 石川県立看護大学 准教授 寺井 梨恵子 | (対面) 石川県立 看護大学 研修室 |
| | 10:35 ～ 11:15 | 授業設計の基本 (1) 講義 | | |
| | 11:15～ 12:00 | 科目を設計しよう ワーク グループで科目のコースを設計 | | |
| | 13:00 ～ 13:25 | 授業設計の基本 (2) 講義 | | |
| | 12:25 ～ 14:35 | 1回の授業を設計しよう 1. 個人で1回の授業の構成を設計 2. プレゼン | | |
| | 14:35～ 15:00 | 座談会 まとめ | | |

4. 評価

【受講者の学び（一部）】

- ・授業設計をすることの大切さを改めて実感しました。いろいろな業務に追われて忙しい日々ですが、学生も私もワクワクする授業を設計していきたいです。
- ・授業設計の大切さについて、改めて感じる事ができた。様々な手法も取り入れて授業をつくっていきたい。
- ・今まで行ってきた授業設計も案外悪くないと思えた。評価の仕方など、新しい知識も得られてよかった。
- ・授業を組み立てる必要性が理解できました。シラバスを考える考え方が理解できました。これまで目標の設定の仕方が良く分からなかったのも、目標の領域やそれをどんな動詞で作って示すか、など、大変参考になりました。
- ・今、悩んでいることが丁度グループワークで話し合えた。教員の目線や考えを学生に押し付けていた部分があったので、学生の目標や考えを尊重できるような関わりをしたい。
- ・教員としてどうあるべきか勝手にプレッシャーを感じていたが、そうではなくて学生と共に学ぶ姿勢を大切にしていきたいと感じた。成功体験こそリフレクションすることが大切であると知ることができた。
- ・『教えなければいけない』というプレッシャーで学生に何を言えば良いか困っていた。今回の研修で学生を見た事象や考えた事を聞く事で話すことが見えてくると思ったし実践に生かそうと思う。
- ・学生の思いや視点を大切にしておくことの大切さを学べた。教員としての役割（学生に一方向的に伝えるのではなく一緒に悩み学ぶこと）を自分の中で整理して考える事ができた。
- ・教員の役割について実践者との違いを学ぶ事ができた。共同注視という指導のあり方や、共に学ぶ姿勢でよいのだと知れた事はすぐに実習指導で活かせる事でとても良い学びになった。
- ・当院でも悩みながら計画実施してきた新人看護師教育と他施設で悩み実施してきたことと、そう変わりなく、方向性は間違っていないと確信できた。
- ・学校での学生の課題と新人看護師の課題は共通しており、社会人基礎力や臨床判断能力をつけるためのシミュレーションは意識して取り組んでいかないといけないと思った。
- ・自施設の実習生受け入れ体制や新人教育の参考にとってもなった。とくにペア制の導入や細かいところではウォーキングカンファレンスの導入なども検討しているため、具体的なメリットデメリットが聞けて、興味深かった。
- ・コロナ禍で実習に行けなかった卒業生の様子を知ることができ、試行錯誤しながらやってきた学内実習を自分なりに評価することができた。
- ・内省の仕方について、「出来なかった・出来た」だけでなく「どこまでは出来たか」「次はどうするか」「出来たことがもっと出来るようになるには」という振り返りの仕方を初めて知ることができた。
- ・3ヶ月のリフレクションで、「自身のほめること」が自己肯定感につながるという内容でしあった。自身のほめてあげたいことというのが新鮮な切り口でした。3ヶ月だけでなく、リフレクションの機会に活用したいスキルだと思った。
- ・Iメッセージで話す、未来肯定の問い方など、まだまだ未熟なスキルがたくさんあり、指導にいかせるようにしていきたい。
- ・学生の面談、実習指導、院生の研究指導、若手教員の指導等あらゆる場面で活用できると感じた。とにかく、まずは安心して話せる環境作り、傾聴する姿勢が大切であるということ再認識した。そのうえで、未来肯定の問いかけを意識していきたいと思う。そのためには自分の中にいろいろな

パターンでの引き出しを持つことが必要である感じたため、考えていきたいと思う。

- ・コーチングについて、普段から学生と関わる中で実践している内容もありましたが、先生の体験談等を通して分かりやすく知ることができました。これから実践の中で、相手のことを知る姿勢や学習者と共に学び成長する姿勢を大切にしたいと思いました。
- ・わかりやすく、今までの学生との関わりを振り返る良い機会となりました。他の方の考えを聞くことで新たな発見がありました。ありがとうございました。
- ・コーチングの技術を臨地実習指導だけではなく日頃の学生との関わり、教員経験の少ない教員との関わりに活かしていきたい。グループワークがとても楽しかったです。ありがとうございました。

【全体評価】

若手教員、看護教員と新人看護教育担当者それぞれの立場で考える機会になったと考える。研修では、互いの知恵から学び合うことができ、目標は達成できたと考える。

5. 今後の課題

COVID-19 感染症の感染拡大による実習への制限はいまだ続いている。そのため、看護教員は少ない実習体験を学生自らが意味づけられる教育方法を身につける必要がある。また、看護基礎教育と臨床現場が互いの現状や課題を話し、COVID-19 感染症の感染拡大によって起きている課題を解決できる糸口を見つけられる場をつくっていく必要がある。



8/27(土) 研修の様子 (ロールプレイ発表)



11/5(土)講義の様子 (講師：県立大学・小椋賢治教授)

VII. 感染管理看護実践力向上研修

1. 目的・目標

【目的】

感染管理について専門的看護実践能力を身につけ、感染防止対策の中心的な役割を担うことができる看護師を育成する。

【目標】

- 1) 感染管理における病院の役割と機能及びシステムについて理解する。
- 2) 感染管理に必要な感染症と抗菌薬、および微生物と微生物検査について知る。
- 3) 病院感染対策の基本をふまえ、エビデンスのある感染防止技術を理解する。
- 4) 自施設の感染管理上の問題を明らかにし、改善への課題と対策を検討する。

2. 実施状況

石川県内 80 施設から 119 名が受講した。受講者の所属施設は、病院 98 名、訪問看護ステーション 2 名、介護老人施設 19 名であった。

| | 6月参加 | 8月参加 | 合計 |
|---------|------|------|------|
| 病院 | 52人 | 46人 | 98人 |
| 介護老人施設 | 12人 | 7人 | 19人 |
| 訪問看護 ST | 2人 | 0人 | 2人 |
| 合計 | 66人 | 53人 | 119人 |

3. 実施内容

令和4年6月2日、3日、10日、11日の計4日間

令和4年8月4日、5日、19日、20日の計4日間

グループワークを交えながら、zoom（遠隔会議システム）を使用したオンライン研修を実施した（表1）。

表 1-1. 研修日程と内容

| 令和4年度 感染管理看護実践力向上研修 | | | | |
|---|---------------------------|---------------------|---|---|
| 開催日 | 時間 | テーマ | 内 容 | 担 当(敬称略) |
| 第1日 6月2日(木) 8月4日(木) 「zoom」による オンライン 研修 | 9:00 ～ 9:50 | オリエンテーション | 受講方法 オリエンテーション Zoomの活用方法 | 看護キャリア支援センター 教員 池田富三香 |
| | 9:50 ～ 10:00 | 開講式 | 開講式のあいさつ | 看護キャリア支援センター センター長 紺家千津子 |
| | 10:00 ～ 10:30 講義 | 看護の動向と看護政策 | 看護の動向と我が国の看護政策について | 石川県健康福祉部 医療対策課 室屋みゆき 高山 次代 |
| | 10:30 ～ 12:00 講義 | 感染管理に活かす感染症学の知識 | 感染症のメカニズム 市中感染と医療関連感染 感染症診断の基本的プロセス・抗菌薬の使用と選択基準 | 金沢医科大学病院 ICD 飯沼 由嗣 |
| | 13:00 ～ 15:40 講義 | 病院感染管理におけるICTの役割と機能 | ①ICDの立場から ②薬剤師の立場から ③細菌検査技師の立場から ④感染管理認定看護師及びリンクナースの立場から | 金沢医科大学病院 感染対策チーム 医師 飯沼 由嗣 薬剤師 多賀 允俊 細菌検査師 河村 佳江 感染管理認定看護師 野田 洋子 |
| | 15:40 ～ 16:30 講義 | 感染管理における施設の役割 | 我が国における感染管理 病院感染管理組織とシステム 感染管理推進のための方策 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 大井希美佳 |

表 1-2. 研修日程と内容

| 開催日 | 時間 | テーマ | 内 容 | 担 当(敬称略) |
|---|----------------------------------|------------------------------|---|---|
| 第 2 日 6月4日(金) 8月5日(金) 「zoom」による オンライン 研修 | 9:00 ～ 9:45 講義 | 感染防止技術の基本 | 標準予防策と経路別予防策 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 松澤 麻里 |
| | 9:55 ～ 10:55 講義 | 感染管理に活かす微生物学の知識 | 微生物の基礎的知識 感染管理上重要な病原微生物の種類と特徴 微生物検査 | 石川県立こころの病院 ICMT 新川 晶子 |
| | 11:05 ～ 12:05 | 職業感染防止対策 | 針刺し、切創、血流体液曝露対策 流行性感染症対策 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子 |
| | 13:00 ～ 14:30 | 感染防止対策の実際 | 看護ケアにおける感染防止 洗浄消毒滅菌と環境管理 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 大井 希美佳 |
| | 14:40 ～ 16:00 演習・ GW | 自施設の感染管理組織とシステム (グループワーク) | ①自施設の感染管理組織とシステムを把握し、他施設の状況も知る。 ②自施設の問題点を抽出できる | 演習支援メンバー: 大井希美佳、松澤麻里、 北川 洋子、池田富三香 |
| 第 3 日 6月11日 (金) 8月19日 (金) 「zoom」による オンライン 研修 | 9:00 ～ 10:00 | 医療器具・処置関連感染防止対策① | 尿路感染防止対策 血流感染防止対策 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子 |
| | 10:00 ～ 10:30 | 医療器具・処置関連感染防止対策② | 医療関連肺炎防止対策 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 松澤 麻里 |
| | 10:40 ～ 11:30 | 医療器具・処置関連感染防止対策③ | 手術部位感染防止対策 | 金沢医科大学病院 感染管理認定看護師 日向千恵子 |
| | 12:30 ～ 13:50 講義 | 病院感染防止対策 | アウトブレイク対策について | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 松澤 麻里 |
| | 14:00 ～ 16:30 演習・ GW | 病院感染防止対策演習 | 病院感染事例の対策について 演習問題をグループワーク | 演習支援メンバー: 大井希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 |

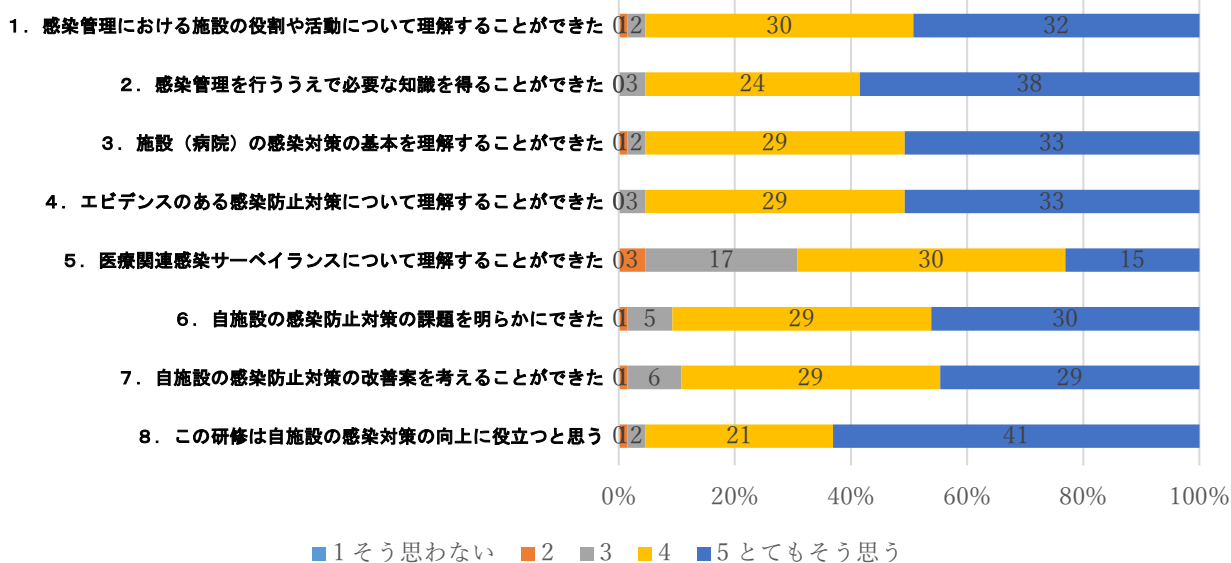
表 1-3. 研修日程と内容

| 開催日 | 時間 | テーマ | 内 容 | 担 当(敬称略) |
|---|-----------------------|---------------------|--|--|
| 第 4 日 6 月 12 日 (土) 8 月 20 日 (土) 「zoom」に よる オンライン 研修 | 9:00 ~ 10:00 講義 | 医療関連感染サーベ イランス概論 | サーベイランスとは サーベイランス種類と方法 感染率・使用比の算出とベン チマーク・データ活用 | 浅ノ川総合病院 感染管理認定看護師教 江波 麻貴 |
| | 10:00~ 12:00 GW | 自施設の感染管理 改善計画作成① | 自施設の感染管理上の問題点 を明確化し 改善計画を立案する | 演習支援メンバー: 大井希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 江波 麻貴 池田 恵子 鍛冶 佳美 |
| | 13:00~ 16:00 GW | 自施設の感染管理 改善計画作成② | グループで一つの改善課題を 選定し計画を立案する | 嶋田由美子 |
| | 16:00~ 16:20 | 閉講式 | 閉講のあいさつ 修了証書授与 | 看護キャリア支援センター センター長 紺家千津子 |

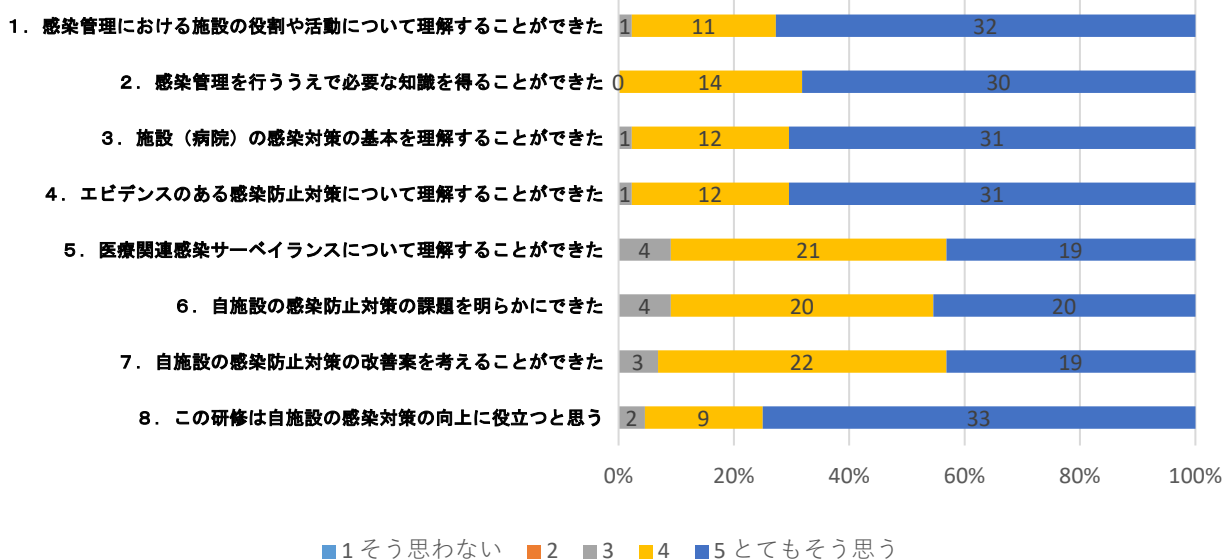
4. 評価

1) 研修内容の理解について

2022.6月分 n=65 回収率 98.5%



2022.8月分 n=44 回収率 83.0%

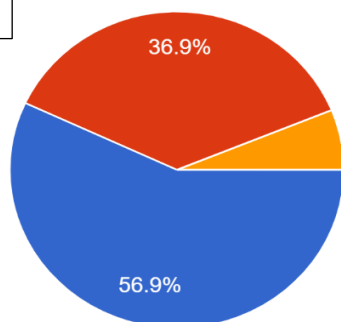


2) 開催時期や時間について

10. 開催時間は適当であったか？

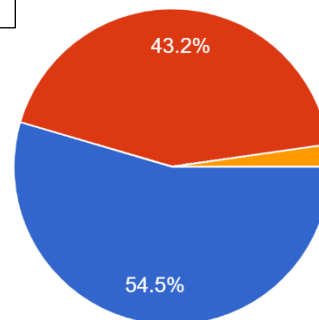
65件の回答

2022.6月分



44件の回答

2022.8月分



● よい
● ちょうどよい
● よくない

3) 感想、意見、要望（一部抜粋）

- ・感染防止対策について改めて振り返り学ぶことができた。
- ・自施設に持ち帰って役立てたいと思う。
- ・感染対策と言っても様々な職種がかかわり、色々な角度から考えないといけないということが分かった。また、対策を考えることは大まかに考えるのではなく、何に焦点を当てるか決めないと内容がぶれてしまうと分かった。
- ・疑問に思っていたことや曖昧になっていたことが確認できた。また、自施設で行っていることがスタンダードでなくなっていたということが勉強になった。
- ・専門の先生方からの講義は、直接現場に活かせる大変有意義な研修だった。
- ・感染対策についての知識を深めることができた。
- ・抗菌薬の講義が難しかったので、もう少し分かりやすく解説していただけたらと思った。
- ・実践に役立つ勉強ができて本当に有意義な時間をいただいた。
- ・濃厚な研修でしたが、自施設で感染対策を頑張っていこうと思う。
- ・多くの講義で内容がかぶっているように思った。
- ・自施設、訪問先では感染管理にどれくらいのコストをかけられるのか気になったので確認していきたいと思う。
- ・講義では、日頃ボヤッとしている感染対策の根拠などがしっかりと理解することができた。
- ・感染管理について沢山楽しく学ぶことができた。課題は沢山あるが、少しずつ小さなことから実践していきたいと思う。楽しんで続けて行くことも忘れないようにしていきたい。
- ・今回の受講で自身の个人防护具の着脱方法に間違いがあることに気づけた。
- ・基本は標準予防策とあらためて認識した。今後、病院でも標準予防策の大切を話していきたい。
- ・院内感染を予防するには一人の行動だけではなく、全員で行動することが大切であることを改めて理解した。
- ・院内で COVID -19 陽性者が発生した時の対処法や陽性病床での予防策について、この研修会で学ぶことができてよかった。
- ・コロナウイルスの感染対策に関する見直しをすることができた。
- ・自施設の今後の課題が明確になった。
- ・今まで参加した研修の中で、1 番大変で有意義な内容であった。感染対策に対しての意識が持てるようになった。
- ・カテーテル類、コロナウイルス関連の事などを知ることができた。

- ・基礎の感染対策にプラスして、訪問看護での対策が必要だが、今後も技術を損なわずに頑張っていきたい。
- ・老健勤務で ICT がなく、役割等学ぶことができた。認知症高齢者が多く入所されている施設であり、手指衛生、環境衛生の確保が困難な中、PPE 着脱を含め職員の手技の習熟度、遵守されているかの確認の必要性を感じている。実践的で盛沢山な研修内容で、自分に出来ることを改めて探していきたいと思います。
- ・自施設に足りない部分や具体的な感染対策について考える機会となった。
- ・感染対策の基本的な知識を振り返り、また新しく得ることができた。
- ・感染委員での活動がよくわからないまま活動していたが、研修に参加して自分が行わなければいけない事を理解できた。
- ・感染管理の基礎から感染対策、サーベイランスなど必要な知識が得られたと思う。今は、コロナ対策が主となっているが、他の医療関連感染対策にも対応していかなければならないと思った。
- ・サーベイランスのことなど、よく理解していなかったことについて、今まで分かりやすい研修がなかったので良かった。
- ・自分にできることから、一つずつ始めようと思う。
- ・院内の感染対策が法律や予防、現状把握からの対策に基づいていると改めて感じた、個人的にはサーベイランスの話や細菌の話に興味を持てた。院内の感染に関わる組織図は研修がなければ意識してなかったと思う。
- ・研修を通して当院はなぜやっていないんだろう？と思うことがいくつかあり、委員会に持ち帰って聞いてみたいと思った。
- ・今回の研修を通して感染管理についてリンクナースとしての意識が少し高まった。今回課題として挙げた問題を実行していきたいと思います。
- ・研修内容やグループワークは実践に即していて、活用しやすいと思った。
- ・理解できるか不安だったが、感染対策の基本、その根拠をしっかり学ぶことができた。介護の現場では看護師の数が少なく感染対策についての悩み、考えることが沢山ある。今回できた人間関係のつながりも大切に、これからも少しずつできることを頑張っていきたい。
- ・薬剤師や検査技師などの様々な視点から学ぶことができた。様々な施設の方の情報を共有でき、視野が広がった。自分の病院での感染対策上の課題や具体策が見えた。
- ・自施設では、まあまあ感染対策が出来ているのかと思っていたが、今回の研修で、まだまだ委員としてやらなくてはならないことが沢山あると痛感した。
- ・最新の内容となっており勉強になった。微生物検査や抗生剤の適正使用については、基礎知識が得られた。講師の実践に基づいた講義が、臨床に役立つ内容であり、また工夫やマインドを学ぶ機会となった。
- ・感染対策の知識向上、関心が高まり、これからも自己研鑽に励み、自施設の感染対策に協力していきたいと思います。

【オンライン (zoom) について】

- ・zoom のやり方も研修を通して学ぶことができたのでよかった。
- ・これまでは休みを取りづらく外部の研修にはなかなか参加できなかったが、遠方でも zoom で、このような学びの多い研修を受けられたことで、学ぶことに対する楽しさを思い出し自身の意識改革につながった。
- ・zoom での研修は初めてだったが、わかりやすく有意義な研修だった。
- ・zoom に不慣れでグループワークで迷惑をかけた。
- ・zoom でのグループワークはドキドキしたが、書記でパワーポイントを活用し共有しながら話し

合う経験ができた。

- ・リモート研修に不慣れで、上手く操作できない部分が多かった。先生方から教えて頂けたのが良かった。今後も勉強できる機会があれば、どんどん参加していきたいと思う。
- ・オンライン研修で自宅から参加できるので良かった。チャット機能を利用して質問もしやすかった。
- ・zoom で眼精疲労がひどく、翌日欠勤してしまった。zoom は1~2時間が限度だと思う。世間一般もコロナの外出制限が解除になっており、感染対策の研修はなおさら会場で開催されるのが望ましいと思う。
- ・zoom は自宅で研修を受けれるメリットはあるが、操作やパソコンとの連携になると難しい。
- ・タブレットで参加したが、課題などダウンロードできなくてグループワークで書記ができず不便だった。
- ・チャットから送られてきた PDF の取り込みや画面共有などに戸惑った。パワーポイントを取り込むこともできなかったが、グループの方がダウンロードできた。チャットを利用して質問できるのも、質問しやすくて良かった。
- ・事前にパワーポイントの使用や PDF 貼り付けなどお知らせがあれば、書記など役割ができた残念に思った。
- ・zoom の操作に不安があった。
- ・自宅で研修を受けていたため、土曜開催だと子供もいて環境を作るのが難しかった。
- ・zoom の調整をしても音声が聞き取りづらい講義があり、内容がすごく興味があるものだっただけに残念だった。
- ・短期間での集中した講義だったので多少の疲労感はあるが、他部署の状況を知ることができ参考になった。
- ・初めての zoom での研修参加となったが、zoom だけでなくパワーポイントを使用すると思っていなかった。事前に使用すると分かっていたら準備ができたと思う。

【グループワークについて】

- ・講義だけでなく、グループワークの形式も良かった。
- ・グループワークは不安だったが、やってみると楽しかった。
- ・グループワークで他の施設の感染管理状況を知ることができ、とても貴重な時間になった。学んだことを明日から活かして感染対策に取り組んでいきたい。
- ・グループワークでは、情報交換ができ有意義であった。
- ・座学だけではなく、グループワークすることで考えがまとまり、問題を話すことで一体感も生まれとてもよい研修であった。
- ・グループワークでは似たような部署での割り振りで、話を互いに理解しやすく良かった。
- ・グループワークでは、内視鏡室は特殊すぎて話し合いが難しかった。
- ・グループワークの進め方がよくわからなかった。
- ・グループワークでの計画を踏まえ、自施設での計画に繋げていきたいと思う。
- ・自分の意見をわかりやすく相手に伝える難しさや実際の計画に沿った進め方を考えることの難しさを、演習を通して改めて感じた。
- ・グループワークで書記、司会、発表を行ったが、同じ人が行っている状況で、何も行っていない方がいたので、持ち回り制にしてもらえたらありがたかった。
- ・同じ訪問看護をされてる方の意見を参考にできて良かった。グループワークは苦手だったが、楽しかった。
- ・手指消毒量の使用量が少なく以前から悩んでいたが、他施設でも同じ悩みを持っており、悩みの

共有、実践していること等、共有することができた。グループワークの中で考えさせられ、アドバイスをもらうことで、病棟でも実践できそうに思えた。適切に手指消毒を使用し使用量が増加できるように、活動を行っていきたいと思う。

- ・感染管理について知識が未熟で講義の中で言葉の意味を理解するところからのスタートで、グループワークでも活発な意見交換に参加することができなかったが、他の病院の方の活動内容を聞いて頑張らないといけないと思った。

【その他】

- ・定期的に休憩時間を確保してほしかった。
- ・この研修が今回だけでなく基礎編、フォローアップ編と参加者の習得度に応じて継続して頂けると嬉しいと思う。災害看護研修のように認定、ナンバー制などいかがでしょうか？

VIII. 保健所感染症対応向上研修

1. 目的

新型コロナウイルス感染症等の集団発生事例が発生した場合に、保健所職員が、適切な感染防護具の使用やゾーニング、消毒の方法について、医療機関や施設等の個々の状況下に合わせた指導ができるよう、感染症に関する基本的知識及び具体的対策を学び、保健所における感染症対応力の向上を図る。

2. 実施状況

石川県内の5つの保健所および石川県庁より13名の保健所職員が受講した（保健師11名+薬剤師2名）。

臨地実習は、5つの施設（特別養護老人ホーム・障害者施設・住宅型有料老人ホーム）で上記目的に沿って実習を行った。

3. 実施内容

第1回:オンライン講義 令和4年5月24日（火）9:00～16:30

第2回:臨地実習および実習の振り返り、手指衛生や個人防護具の着脱演習

7月15日（金）輪島荘

9月2日（金）ボニジュール根上

9月20日（火）うめの木学園

11月8日（火）あての木園

11月21日（月）シニアハウス香林苑白山

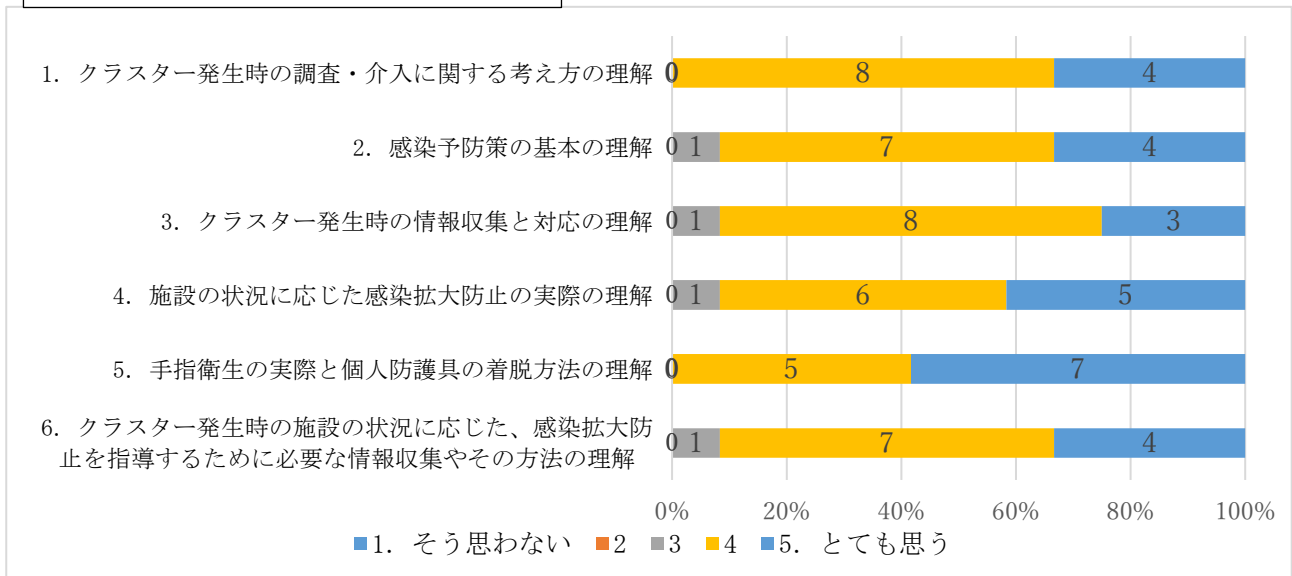
第3回:グループワーク+成果発表会 令和4年12月19日（月）9:00～12:00

表 1. 研修日程と内容

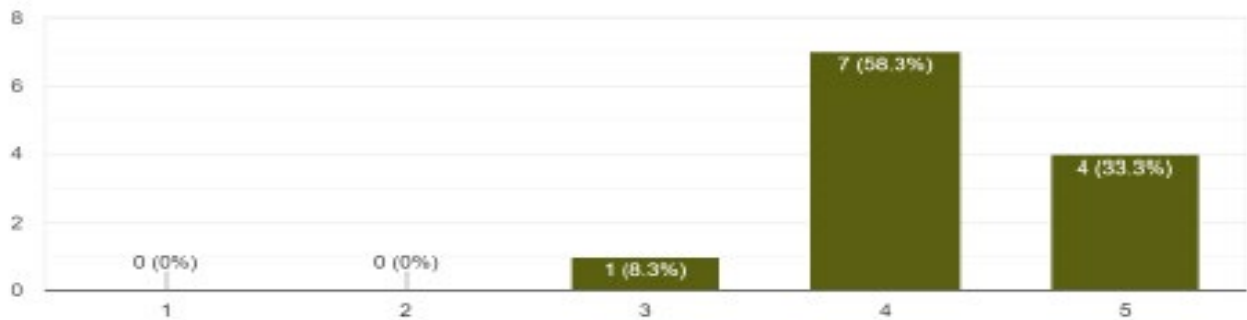
| 開催日 | 時間／方法 | テーマ | 内 容 | 担 当(敬称略) |
|---|-----------------------|---|--|---|
| 第 1 回 5 月 24 日 (火) 「zoom」による オンライン 研修 | 9:00～ 9:10 | オリエンテーション | ・オリエンテーション ・zoom の活用方法 | 看護キャリア支援センター 主任教員 池田富三香 |
| | 9:10～ 9:15 | 開講式 | ・開講式あいさつ | 看護キャリア支援センター センター長 紺家千津子 |
| | 9:15 ～ 10:00 | クラスター発生時の調査・ 介入に関する疫学、考え方 | ・医療関連感染で特に問題となる 感染症 ・感染症発生時に必要な情報収集 ・クラスター発生時の対応、優先順位 | 金沢医科大学病院 I C D 飯沼由嗣 |
| | 10:00～ 10:40 | 感染予防対策の基本 1) 標準予防策 | ・感染対策の基本 ・手指衛生の重要性 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育課程 専任教員 北川 洋子 |
| | 10:50～ 11:30 | 感染予防対策の基本 2) 感染経路別予防策 | ・疾患別の感染予防対策 ・新型コロナ感染症の対応 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育課程 専任教員 松澤 麻里 |
| | 11:30～ 12:10 | 感染予防対策の基本 3) 器材の取り扱いと環境管理 | ・洗浄・消毒・滅菌 ・環境整備の重要性 | 看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育課程 専任教員 大井希美佳 |
| | 13:10～ 16:10 GW | 事例検討 | ・クラスター発生時の情報収集と 対応 | 看護キャリア支援センター 大井希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 |
| | 16:10～ 16:30 | 実地研修について | ・実地研修のすすめ方 ・実習計画書の作成 | 看護キャリア支援センター 主任教員 池田富三香 |
| 第 2 回 実地研修 7 月 15 日 9 月 2 日 9 月 20 日 11 月 8 日 11 月 21 日 | 1 施設/ 日 | 高齢者施設、障害者施設 等に出向き、実際の現場 での感染対策を学ぶ | ・1 グループ 2 名で、施設等を訪問 ・研修目的 (医療機関や施設等の個々の状況に 応じた感染拡大防止の実際を学ぶ) | 演習支援メンバー： 看護キャリア支援センター 大井希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 浅ノ川総合病院 江波 麻貴 公立つるぎ病院 嶋田由美子 |
| | 実習の 振り返り 演習 | 手指衛生の実際 個人防護具の着脱方法 実習施設での学び | ・手洗い手指消毒の実際 ・マスク、アイシールド、エプロン、 ガウン、手袋の着脱の実際 | |
| 第 3 回 実地研修終 了後 開催日 12 月 21 日 | 9:00 ～ 10:50 GW | 実地研修のまとめ | ・実地研修での学びから 1 施設選び 事例報告書を作成 (学んだ事、気づいたこと等) | 演習支援メンバー： 看護キャリア支援センター 大井希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 |
| | 11:00～ 11:55 | 情報共有 各グループ 6 分以内で 発表 | ・各グループで、実地研修から共有 したい情報の事例を選び発表する | 浅ノ川総合病院 江波 麻貴 公立つるぎ病院 嶋田由美子 |
| | 11:55～ 12:00 | 閉講式 | ・閉講式あいさつ | 看護キャリア支援センター センター長 紺家千津子 |

4. 評価

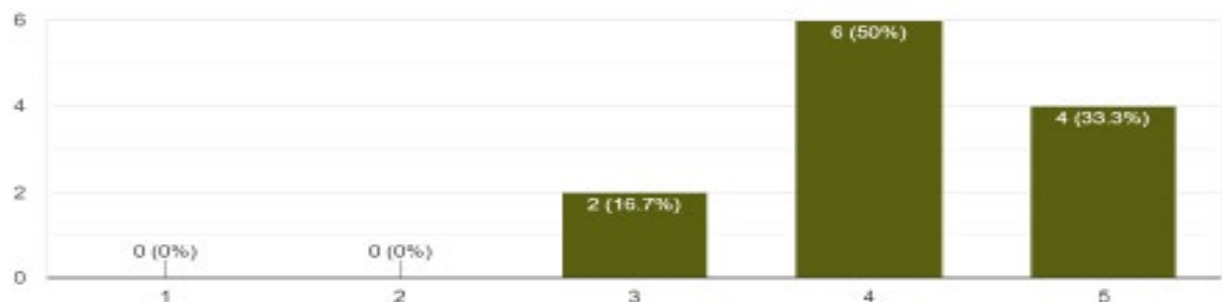
アンケート結果 n=12 回収率 92.3%



7. この研修は、実際にクラスター発生時の対応を行う上で役立つと思う。



8. この研修を次年度以降も継続した方がよいと思う。



9. 研修開催時期、時間について、自由記載

1) 開催時期、時間は適切

- ・適切であった。
- ・今年のようにだいたい時期を決めてもらい、日程調整をして細かく日時を決めてもらうと助かる。

2) 開催時期、時間の検討が必要

- ・午後の研修がよい。
- ・コロナの感染拡大の影響もあったと思うが、もう少し開催日程の期間が短いと良い。

- ・コロナ禍の中で、実地研修が何度も延期になってしまい、第1回の研修からかなり時間が空いてしまったため残念だった。
- ・研修の記憶が新しい間に、次の研修を開催した方が良かった。
- ・3回に分けて実施することで感染症対策について十分に検討することができた。実地研修が7月に行われたため、やや期間が空いたように感じるが、復命書を参考に再度振り返りをすることができてよかった。
- ・実地研修は、早い時期の方がよい。

10. 研修に対する感想や意見、要望など自由記載

1) 研修方法について

- ・グループワークが多い研修のため、来年はできるだけ対面での実習がよい。
- ・zoomでの研修だったので、参加はしやすかった。

2) 第2回実地研修について

- ・実地指導に同行し、ゾーニングの実際を経験できたので学びやすかった。
- ・実地研修をすることで、より施設の状況を見ることができてよかった。
- ・第2回研修は、非常に分かりやすかった。

3) グループワークについて

- ・グループワークの時間が足りなかった。

4) 研修全体について

- ・研修に参加して、施設にアドバイスなどがしやすくなったので良い経験になった。
- ・講義やグループワークだけでなく、臨地実習に出向くこともでき、実践的な知識がついたように思う。有意義な研修だった。
- ・クラスター発生時の対応について大変勉強になりました。実際に施設を見ることで、感染症対策としてどういう部分の意識が足りないのかなどを知ることができた。
- ・1回目の研修内容が、より施設介入に特化した講義だと良いと思う。

IX. 地域貢献

1. 各機関からの依頼による派遣事業

| 氏名 | テーマ | 主催者名 | 場所・機関 | 年月（西暦） |
|-------|---|------------------|------------------------|---------------------|
| 大井希美佳 | 令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 個人防護具着脱演習 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 福祉総合研修センター | 2022.6.4 |
| 大井希美佳 | 令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 個人防護具着脱演習 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 石川県地場産業振興センター 第5会議室 | 2022.6.12 |
| 松澤 麻里 | 石川県立看護大学1年次前期 感染管理学講義:9. 医療器具・処置関連感染防止策 10. 職業感染管理 | 石川県立看護大学 | 石川県立看護大学 | 2022.5.23 |
| 松澤 麻里 | 石川県立看護大学1年次前期 感染管理学講義:11. 感染管理に関するチーム医療、地域連携 | 石川県立看護大学 | 石川県立看護大学 | 2022.5.30 |
| 松澤 麻里 | 令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 個人防護具着脱演習 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 石川県地場産業振興センター 第5会議室 | 2022.6.12 |
| 松澤 麻里 | 令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 講義・個人防護具着脱演習 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 石川県青少年総合研修センター | 2022.9.25 |
| 北川 洋子 | 講義:高齢者施設・在宅での感染防止対策 | 富山県院内感染対策協議会 | 富山県医師会館 | 2022.12.10 |
| 池田富三香 | 講義:認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 人材育成の基礎知識 | 石川県看護協会 | 石川県看護協会 | 2022.11.14 11.15 |